FUJIFILM

SUPER CCD HONEYCOM

Digital Camera

FinePix S1 Pro

使用説明書

この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ
ファインピックスS1Proの使い方がまとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

基本編 1
設定編 2
応用編 撮影 3
応用編 再生 4
資料編 5

BB11378-101(1) J

安全上のご注意

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。	
警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。	
	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

電源プラグを抜く

異常が起きたら電源を切り、電池・バッテリーやACパワーアダプターを外す。

煙が出ている、異臭がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。
● お買上げ店にご相談ください。

水ぬれ禁止

内部に水や異物を落とさない。

水・異物が内部に入ったら、電源を切り、電池・バッテリーやACパワーアダプターを外す。
そのまま使用すると、ショートして火災・感電の原因になります。
● お買上げ店にご相談ください。

不安定な場所に置かない。

バランスがくずれて倒れたり落下したりして、けがの原因になります。

分解禁止

分解や改造は絶対にしない（ケースは絶対に開けない）。
落としたり、ケースが破損したときは使用しない。

火災・感電の原因になります。
● お買上げ店にご相談ください。

⚠ 警告

 風呂、シャワー室での使用禁止	**風呂、シャワー室では使用しない。** 火災・感電の原因になります。
	移動しながらの撮影は絶対にしない。 歩行中や自動車などの乗り物を運転しながらの使用はしないでください。 転倒、交通事故などの原因になります。
	雷が鳴りだしたら金属部分に触れない。 落雷すると誘電雷により感電の原因になります。
	指定外の方法で電池・バッテリーを使用しない。 電池は極性(⊕⊖)表示どおりに入れてください。
	電池・バッテリーを分解、加工、加熱しない。 **電池・バッテリーを落としたり、衝撃を加えない。** **リチウム電池やアルカリ電池は充電しない。** **電池・バッテリーを金属製品と一緒に保管しない。** 電池・バッテリーの破裂・液漏れにより、火災・けがの原因になります。
	指定外の電池・バッテリーやACパワーアダプターを使用しない。 火災の原因になります。
	電池の液が漏れて、目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やけがのおそれがあるので、ただちにきれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受ける。
	電池を廃棄する場合や保存する場合には、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはる。 ●他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
 使用禁止	**可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと。** 爆発、火災の原因になることがあります。
 見ないこと	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと。** 失明や視力障害になることがあります。
 使用禁止	**ショルダーベルトが首に巻き付かないようにすること。特に幼児・児童の首にショルダーベルトをかけないこと。** 首に巻き付いて窒息することがあります。

⚠ 警 告

ボタン型（リチウム）電池は、幼児があやまって飲むことがないように、幼児の手の届かないところで保管する。

飲み込むと中毒症状を引き起こす原因になります。万一飲み込んだ場合はただちに医師と相談してください。

⚠ 注 意

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない。

火災・感電の原因になることがあります。

異常な高温になる場所に置かない。

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所に置かないでください。火災の原因になることがあります。

本機の上に重いものを置かない。

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

ACパワーアダプターを接続したまま移動しない。

電源コードやケーブルが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

本機やACパワーアダプターを布や布団でおおったりしない。

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

お手入れの際や長時間使用しないときは、電池・バッテリーやACパワーアダプターを外す。

火災・感電の原因になることがあります。

目の近くでストロボを発光させない。

一時的な視力障害の原因になることがあります。

定期的な内部点検・清掃を依頼する。

本機の内部にほこりがたまり、火災や故障の原因になることがあります。
●2年に1度くらいは、内部清掃をお買上げ店にご依頼ください。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること。

太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと。

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

目次

1 基本編

2 設定編

目次－つづき－

3 応用編　撮影

4 応用編　再生

5 資料編

はじめに

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やデータの記録されたメディア（スマートメディアおよびマイクロドライブ）の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

● 皮膚に付着した場合：
付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。

● 目に入った場合：
きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。

● 飲み込んだ場合：
水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

● 本カメラはクラスB情報技術装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しています。しかし本カメラをラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● この機器を飛行機や病院の中で使用しないでください。
使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像データが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

● iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。

● Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

● SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。

● その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

カメラの特長／付属品

主な特長

- 新開発の大サイズ "スーパーCCDハニカム" 搭載により超高解像度、高感度、高ダイナミックレンジ、高S／Nを実現
- 撮影間隔最短約0.7秒（613万記録画素）の軽快な操作感
- 被写体に適した条件で簡単に撮影できるイメージプログラム、AUTO撮影モード
- 撮影条件を細かに設定可能な露出プログラム、マニュアル撮影モード
- 内蔵ストロボ及び外部ストロボ対応
- 各種設定状態をすばやく確認できるドットマトリクス液晶（バックライト付）を搭載
- 2種類の記録メディアスロット搭載（スロット1：スマートメディア、スロット2：CF Type Ⅱ）
- 用途に応じて3種類の記録画素に対応（613万／354万／138万記録画素）
- ヒストグラム表示機能により撮影後、即座に露光状態を確認可能
- フイルムを選ぶ感覚で、ISO感度・色味・階調・シャープネスを独立して設定可能
- 2型20万画素高精細低温ポリシリコン液晶カラーモニター搭載
- 色及びハイライト／シャドウ部確認用のカラー＆グレースケール画面表示機能搭載
- USB接続により簡単高速に画像データ転送及びパソコンからの撮影が可能（別売オプションで対応）
- 簡単プリントを実現するDPOF（Digital Print Order Format）対応
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠
  ＊DCFは日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

付属品

● 単3形アルカリ乾電池（4本）

● リチウム電池 CR123A（2本）

● ボタン型電池CR2025（1個）

● ショルダーベルト

● ビデオケーブル
φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ約1.5m（1本）

● ボディキャップ（1個）

● 電池型アダプター（1個）

● アイピースキャップ（1個）

● 使用説明書（本書1部）
● 保証書（1部）

各部の名称

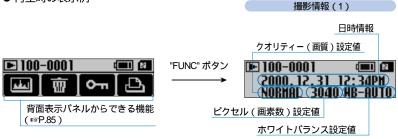
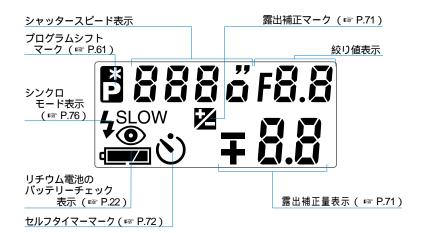
AF補助光（☞P.57）
セルフタイマーランプ（☞P.72）
赤目軽減ランプ（☞P.75）
上面表示パネル（☞P.14）
露出補正ボタン（☞P.71）
アクセサリーシュー（☞P.78）
絞りボタン（☞P.64）
内蔵ストロボ（☞P.74）
レンズ取り外しボタン（☞P.21）
シンクロモードボタン（☞P.76）
AF
M
ベルト取付部（☞P.16）
フォーカスモード切り換えダイヤル（☞P.27、57）
OFF ON
AF NIKKOR
28-85mm
1:3.5-4.5
VIDEO OUT端子（☞P.36）
シャッターボタン（☞P.30）
デジタル（USB）端子（☞P.112）
電源スイッチ（☞P.22）
DC IN 5V端子（☞P.19）

セルフタイマーボタン（☞P.72）
ファインダー接眼窓
（☞P.73）
視度調節レバー（☞P.73）
ストロボロック
解除ボタン（☞P.76）
AEロックボタン
（☞P.70）
AE-L
ベルト取付部
（☞P.16）
AUTO
単3形電池の電池ぶたの
つまみ（☞P.18）
コマンド
ダイヤル
（☞P.61）
露出モードダイヤル（☞P.60）
接眼目当て（☞P.73）

ファンクションボタン[4]
CANCELボタン
ファンクションボタン[3]
十字ボタン
ファンクションボタン[2]
ファンクションボタン[1]
MENU/EXEボタン（☞P.33）
ボタン型電池の
電池ぶた（☞P.17）
背面表示
パネル
（☞P.13）
リチウム電池の
電池ぶた（☞P.17）
FUNCボタン（☞P.40）
スロットカバー
（☞P.24）
PLAYボタン（☞P.31）
カラー液晶モニター（☞P.13）
三脚ねじ穴

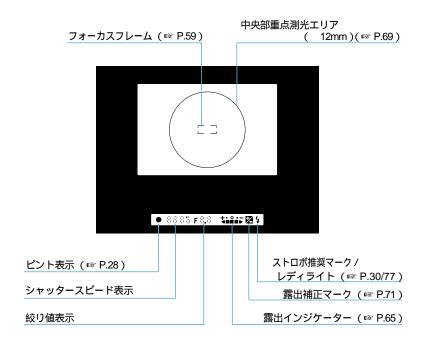
背面表示パネルの表示例

● 撮影時の表示例

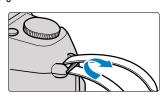
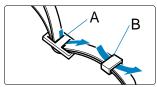
● 再生時の表示例

上面表示パネル

☞ 注意　表示パネルとファインダー内表示の液晶について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなることがあります。また、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

ファインダー内表示

フォーカスフレーム （☞ P.59）
中央部重点測光エリア （φ12mm）（☞ P.69）
ピント表示 （☞ P.28）
シャッタースピード表示
絞り値表示
ストロボ推奨マーク／レディライト （☞ P.30/77）
露出補正マーク （☞ P.71）
露出インジケーター （☞ P.65）

1 ショルダーベルトを取り付けます

■撮影中の落下を防止するためにショルダーベルトをお使いください。

1 ショルダーベルトの先をカメラ本体のベルト取付部に通します。

2 ショルダーベルトの先を止め具A、Bに図のように通します。

・ 取り付け後、ゆるみがないかを確認してください。

使いかた

1 ショルダーベルトを肩にかけます。

・ 落下防止のため撮影時はショルダーベルトを肩にかけてからグリップ部をお持ちください。

2　カメラに電池を入れます

■このカメラには、リチウム電池（CR123Aタイプ）2本、ボタン型電池1個、単3形電池4本を使用します。また、別売のACパワーアダプターAC-5VHを使って、一般の電源コンセントからも電源を取ることができます。（各電池の用途についてはP. 128を参照してください。）

リチウム電池をセットします

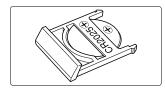
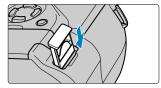
1 電源スイッチをOFFにし、リチウム電池の電池ぶた開閉ノブをスライドさせて、電池ぶたを開けます。

2 電池ぶたの⊕⊖表示にしたがってリチウム電池を入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

・⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

ボタン型電池をセットします

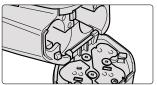
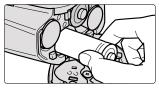
1 電源スイッチをOFFにし、ボタン型電池の電池ぶたを、コインを使用して引き出します。

2 ボタン型電池を電池ぶたの⊕⊖表示にしたがって入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

- ⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

単3形電池をセットします

電池について

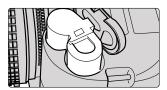
- 単3形アルカリ乾電池（付属）、単3形ニカド電池、単3形ニッケル水素電池がご使用できます。

1 電源スイッチをOFFにし、単3形電池の電池ぶたのつまみを立て、下向きに開きます。

2 単3形電池を電池ぶたの⊕⊖表示にしたがって入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

- ⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。
- 単3形電池を入れないで電源をONにすると、上面表示パネルに "Err" 表示が出て撮影はできません。

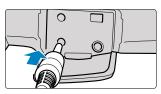
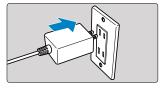
ACパワーアダプター（別売）で使う

1 「リチウム電池をセットします」の手順1を参照し、リチウム電池の電池ぶたを開けます。

- パソコン接続時やテレビに画像を映す場合で長時間電源を入れたままにするときはACパワーアダプターを使うことをおすすめします。
  この場合、リチウム電池の代わりに電池型アダプターを使うと電池の消耗を気にせずにご使用になれます。
  ただし、電池型アダプターを使う場合、内蔵ストロボは使用できません。

2 図のように電池型アダプターを入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

注意 電池型アダプターを使う際のご注意

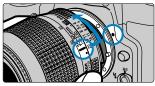
電池型アダプターを使う場合、ACパワーアダプターまたは単3形ニッケル水素電池をご使用ください。

3 ACパワーアダプター（AC-5VH）の接続プラグをカメラのDC IN 5V端子に、電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

- 電池型アダプターを取り出すにはつまみを指でつまんで引き出します。

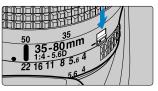
1

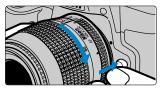
3　カメラにレンズを取り付けます

電源スイッチをOFFにし、レンズを取り付けます。絞りリングは常に最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしたままにします。

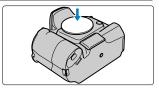
1 電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。

- カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまでゆっくり回します（レンズ取り外しボタンは押さないでください）。
- レンズが装着されていないときや、CPU内蔵ニッコール以外のレンズ（☞ P. 107）を装着したときは、電源スイッチをONにすると上面表示パネルとファインダー内表示にF - -が点滅して警告し、シャッターがきれません（露出モードがマニュアル時はF - -が点灯して、シャッターがきれます）（☞ P. 121）。

> **☞ 注意　レンズの交換についての注意**
> - レンズをカメラに対して傾いた状態で取り付けようとすると、カメラのレンズ取り付け部分を傷つける可能性がありますのでご注意ください。
> - レンズの交換は必ずゴミやほこりの少ないところで行ってください。

2 絞りリングを最小絞りにセットして、ロックします。

- 最小絞りにセットされていないときは、電源スイッチをONにすると上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません（☞ P. 121）。
- ロックは必ずおかけください。絞りリングがずれて、シャッターボタンを押してもシャッターがきれないことがあります。

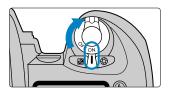
3 カメラからレンズを取り外すには

- レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。

要点　カメラからレンズを外しておくときは

カメラからレンズを外しておくときは、ミラーやファインダースクリーンへのゴミやほこりの付着を防ぐためにも、付属のボディキャップを装着して、カメラの内部を保護してください（ニコン製ボディキャップBF-1Aもご使用になれます）。

1

4 電源のON／OFF

1 電源を入／切するには、電源スイッチをON/OFFにします。電源を入れると、バッテリーチェック表示 が点灯します。

● 上面表示パネルの表示について

（点灯）：リチウム電池CR123Aの容量は充分です。
（点灯）：リチウム電池CR123Aの容量はわずかです。予備の電池を準備してください。
（点滅）：リチウム電池CR123Aを交換してください。
バッテリーチェック表示は、約3秒間点滅後オートパワーオフし、点灯に戻ります。
ファインダー内表示は消灯し、シャッターはきれなくなります。
電池型アダプターを使用しているときは単3形電池を交換してください。

● 背面表示パネルの表示について

（点灯）：単3形電池の容量は充分です。
（点灯）：単3形電池の容量はわずかです。予備の電池を準備してください。
（点滅）：単3形電池を交換してください。
バッテリーチェック表示は、約3秒間点滅後オートパワーオフします。

• 日時が設定されていないときは、背面表示パネルの日時表示が点滅します。

注意　電池についてのご注意

• 消耗した電池は使用しないでください。
• 電池の容量が少ない状態で撮影および再生をしているとバッテリーチェック表示が点灯しているにもかかわらず撮影および再生できなくなることがあります。このときは、電源スイッチをいったんOFFにして、電池を新しいものと交換してください。

■日時の表示形式、年月日、時間を設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。カラー液晶モニターにセットアップメニューが表示されます。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「日時設定」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

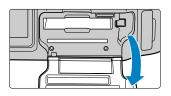
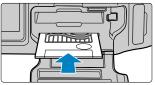
3 十字ボタンの "▲▼" を押して設定したい項目を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して設定します。

- 「DATE TYPE」を選択すると、日時の表示形式を「YYYY.MM.DD」（年・月・日）、「MM/DD/YYYY」（月・日・年）、「DD/MM/YYYY」（日・月・年）から設定できます。
- その他、「YEAR」（年）、「MONTH」（月）、「DAY」（日）、「HOUR」（時間）、「MINUTE」（分）を設定できます。数値を増やす場合は十字ボタンの "▶" を、減らす場合は十字ボタンの "◀" を押します。

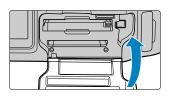
4 "MENU/EXE" ボタンを押します。

5 十字ボタンの "▲▼" を押して、「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

6 メディアをセットします

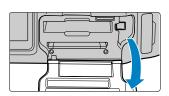
1 電源をOFFにして、スロットカバーのくぼみに指をかけてカバーを開け、マイクロドライブは上のスロットに、スマートメディアは下のスロットに差し込みます。

「スマートメディア」の場合

- スマートメディアは接触面（金色の部分）を上にして差し込んでください。
- マイクロドライブは正しい向きにして、スムーズにスロットの奥まで確実に差し込んでください。

2 スロットカバーを閉めます。

- スマートメディアにライトプロテクトシールが貼られていると、記録、消去ができなくなります。
- 本機の動作保証は弊社製のスマートメディアとマイクロドライブのみとなります。
- データは定期的にバックアップを行ってください。データが消失・破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

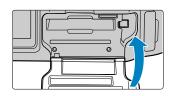
注意　撮影についての注意

本機では、メディアがセットされていなくても、シャッターをきることができます。この場合画像がカラー液晶モニターに表示されますが、記録されていません。
撮影前には必ずメディアがセットされていることをご確認ください。

1 電源をOFFにして、スロットカバーのくぼみに指をかけてカバーを開けます。

- 電源がONのとき、スロットカバーを開けると上面表示パネルに "Err" 表示されます。電源をOFFにしてください。
- 記録中はスロットカバーを開けないでください。データの消失、破損の原因となります。
- 長時間のシャッタースピードでの撮影中にスロットカバーを開けても上面表示パネルは、露光終了まで点灯したままです。

2 メディアを取り出します。

- スマートメディアを取り出すには、スマートメディアを軽く押し込むと、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。
- マイクロドライブを取り出すには、スロットのとなりにある取り出しボタンを押します。

3 スロットカバーを閉めます。

8　このカメラの露出モードについて

<table>
<tr><th colspan="2">表示</th><th>名称</th><th>特長・こんな時に使用すると便利です。</th></tr>
<tr><td colspan="2">AUTO
P.60</td><td>AUTOモード</td><td>カメラが全て露出制御を行います。スナップなどシャッターチャンスを逃さずに、すぐに撮影したいときなどに便利です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">P
P.61</td><td>マルチプログラムオート</td><td>カメラが露出制御を行いますが、プログラムシフト（☞ P.61）や露出補正（☞ P.71）により、撮影者の意図も反映できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">S
P.62</td><td>シャッター優先オート</td><td>シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが制御します。動きのある被写体を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">A
P.63</td><td>絞り優先オート</td><td>絞り値をセットすれば、シャッタースピードはカメラが制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなどの被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を考慮した撮影に最適です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">M
P.64</td><td>マニュアル</td><td>シャッタースピードも絞り値も自由にセットできます。他の露出モードでは意図した撮影が難しいときなどに便利です。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">イメージプログラム
P.66</td><td>P.67</td><td>ポートレートモード</td><td>被写界深度を浅くして（ピントの合う前後の範囲を狭くして）背景をきれいにボカし、立体感のある人物写真が撮影できます。</td></tr>
<tr><td>P.67</td><td>風景モード</td><td>被写界深度を深くして（ピントの合う前後の範囲を広くして）、近景から遠景までピントの合った風景写真が撮影できます。</td></tr>
<tr><td>P.67</td><td>クローズアップモード</td><td>被写界深度を比較的浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。</td></tr>
<tr><td>P.68</td><td>スポーツモード</td><td>シャッタースピードを速くして、一瞬の動きを写し止めた、躍動感のあるスポーツ写真が撮影できます。</td></tr>
<tr><td>P.68</td><td>夜景モード</td><td>暗い被写体に適した露出制御により、夕景写真や夜景写真が撮影できます（夜景を背景に人物を撮影する際、ストロボを使用すればその両方を自然に表現できます）。</td></tr>
</table>

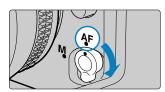
9　露出モードダイヤルをセットします

■露出モードダイヤルをAUTO（AUTOモード）にセットすれば、露出はカメラまかせで撮影が行えます。

1 電源をONにします。

2 露出モードダイヤルをAUTO（AUTOモード）にセットします。

・シャッタースピードと絞り値が上面表示パネルとファインダー内表示に点灯します。

3 フォーカスモード切り換えダイヤルを AF（オートフォーカス）にセットします。

・フォーカスモード切り換えダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
・ピントを合わせるときは、シャッターボタンの半押しを続けてください（☞ P.28）。

1

10 カメラを構え、ピントを合わせます

■シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがピント合わせを行い、ピントが合うとファインダー内のピント表示●が点灯します。

1 カメラを正しく構えます。

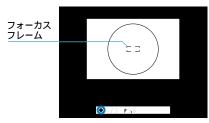
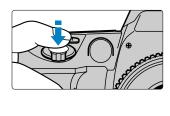
- わきを締め、ひじは軽く体につけます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
- 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。

要点　手ブレとシャッタースピードについて

撮影に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは「1／装着しているレンズの焦点距離」秒より高速になるようにこころがけてください（例：50mmレンズの場合は、1／50秒より高速になるように）。低速時は三脚のご使用をおすすめします。

注意　構図を決める際のご注意

このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の上下約90%、左右約93%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。ただし、画像をFDiサービスなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも、画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、ご注意ください。

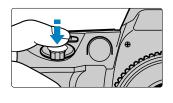
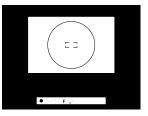
2 およその構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、自動的にピントが合い、ファインダー内表示に次の表示が点灯します。
  - ● 点灯　被写体にピントが合うと点灯します。被写体が動いている時は、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。
  - ● 点滅　オートフォーカスでピント合わせができないときに点滅します。

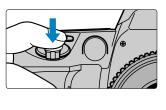
  被写体が暗い場合は、AF補助光を自動的に照射してピント合わせを行います。ピント合わせについての詳細は、P.57をご覧ください。
- ピントを合わせたいものがフォーカスフレームから外れる場合は、「フォーカスロック撮影」(☞ P.59)を行ってください。

1

11 シャッターをきります

■ピント表示点灯●を確認し、シャッターボタンをゆっくりと深く押してシャッターをきってください。

1 **シャッターボタンを半押しし、ファインダー内の表示を確認します。**

- ファインダー内表示にストロボ推奨マーク ϟ が点滅した場合は内蔵ストロボをご使用ください（☞ P. 74、76）。
- 上面表示パネルやファインダー内表示に警告表示が表示された場合は、P.121、122を参考に対応してください。

2 **ピント表示 ●の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。**

- 記録中は背面表示パネルにRECマークが点滅します。

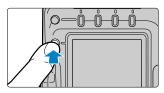
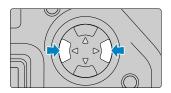
- プレビューモードが［ON］のときに記録中は、シャッターがきれません。
- 撮影可能枚数が反転表示している場合、ピント表示 ● が点灯してもシャッターはきれません。
- メディアが入っていない時は、プレビュー画像が表示され、撮影確認はできますが、記録はできません。

12 撮影した画像を再生します

■撮影して、記録されている画像を再生します。

画像を見るには（再生）

記録されている画像を再生します。

1 "PLAY" ボタンを押します。記録されている画像がカラー液晶モニターに再生されます。

2 他の画像を見るときは、十字ボタンの "▶" （順送り）、"◀" （逆送り）で探します。

- "PLAY" ボタンを再度（マルチ再生に設定されている場合は2回）押すと撮影できる状態に戻ります。
- シャッターボタンを半押しすると撮影できる状態に戻ります。

再生ズーム

再生した画像の細部を拡大表示します。

1 **「画像を見るには（再生）」を参照して、記録されている画像を表示させます。**

- 「4-MULTI」や「9-MULTI」表示されているときは、本操作はできません。1コマ再生に戻してから操作してください。（☞P.33）

2 **十字ボタンの"▲"を押します。画像が拡大表示されます。**

- 十字ボタンの"▼"を押すと、拡大された画面が元に戻ります。
- 十字ボタンの"◀▶"を押すと、他の画像が再生表示されます。
- 画像を等倍表示に戻すときは、"CANCEL" ボタンを押します。
- 最大再生倍率は記録画素数で異なります。

3 **拡大した画像の他の部分を見たいときは、"PLAY" ボタンを押してカーソルを表示させ、十字ボタンの "▲▼◀▶" を押して、見たい部分を表示させます。**

- カーソルを消して通常の拡大表示画面に戻るときは、もう一度"PLAY" ボタンを押すか、"CANCEL" ボタンを押してください。

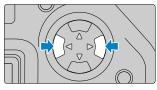
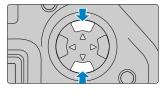
マルチ再生

画像を再生するときの表示を、4画面を一度に表示する「4-MULTI」や9画面を一度に表示する「9-MULTI」に設定します。
マルチ再生は、1コマ消去、1コマプロテクト、DPOF 1コマ設定で画像を選択する場合に便利です。
マルチ再生から1コマ消去や1コマプロテクトのボタンを押したときに"PLAY"ボタンを押すと、1コマ再生で画像を確認できます。

1 "PLAY"ボタンを押し、記録されている画像をカラー液晶モニターに表示します。

2 "MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。

3 十字ボタンの " ◀ ▶ " を押して、「MULTI PLAY」メニューを表示させます。

1

4 十字ボタンの "▲▼" を押して、「4-MULTI」または「9-MULTI」を選択します。

5 "MENU/EXE" ボタンを押すと、マルチ再生されます。

- 設定したとおりに画面がマルチ再生されます。

「4-MULTI」の場合

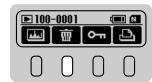
「9-MULTI」の場合

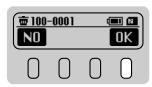
- 1コマ再生に戻すには、「MULTI PLAY」メニューで「OFF」を選択します。

記録されている画像の1コマ消去

記録されている画像を消去します。
記録されているすべての画像を消去する場合は、P.86を参照してください。

1 「画像を見るには（再生）」を参照して、消去したい画像を表示させます。

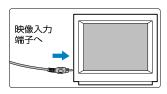
2 ファンクションボタン[2]を押すと、背面表示パネルに消去の確認が表示されます。

- 画像がプロテクト（☞P.88）されている場合は、エラー音が鳴り、約3秒間エラーメッセージが表示されます。
- 画像にDPOF指定がある場合は、エラー音が鳴り、消去の確認メッセージが表示されます。確認後、手順3にお進みください。

3 ファンクションボタン[4]を押すと、選択した画像が消去され、記録されている次の画像が表示されます。

- 操作を中止したいときは、ファンクションボタン[1]を押します。
- 続けて消去する場合は、手順2～3を繰り返してください。

テレビに画像を映す場合

1 **カメラとテレビの電源を切ります。カメラのVIDEO OUT（映像出力）端子にビデオケーブル（付属品）のプラグを接続します。**

- コンセントが近くにある場合は、別売のACパワーアダプター（AC-5VH）を接続することをおすすめします。

2 **テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。**

- テレビの映像入力については、テレビの説明書をご覧ください。

コラム：ピントと露出の豆知識

ピントと露出、そして測光は写真撮影の重要なポイント。それぞれの特徴を知っておくことによって、表現の幅を広げることができます。

ピント（フォーカス）/被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を被写界深度といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。特にレンズの絞りは、絞る（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、これを被写界深度が深いといいます。逆にレンズの絞りを開く（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、これを被写界深度が浅いといいます。（☞ P.67）

露出（露光）

被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルム（CCD）に感光させて記録することを露出（露光）といいます。このとき、被写体の明るさとCCDの感度に合わせ、シャッタースピードと絞りを調節して、CCDに最適な光（適正露出）を与えることが大切です。

このカメラは適正露出を得るため、シャッタースピードと絞りの両方をカメラが決める「AUTO・マルチプログラムオート・イメージプログラム」、シャッタースピードを撮影者自身がセットすれば絞りはカメラが決める「シャッター優先オート」、絞りを撮影者自身がセットすればシャッタースピードはカメラが決める「絞り優先オート」、そして、カメラの露出計を参考にシャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットする「マニュアル」という露出モードを備えています。（☞ P.64）

測光

撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを測光といいます。測光は露出（露光）を決めるときの重要な情報源で、これによりCCDに最適な光（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。

通常、被写体の含まれる撮影画面内の明るさが必ずしも一様ではないため、本機ではその画面を6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「マルチパターン測光」と、撮影画面内中央部の明るさに重点を置いて適正露出を決める「中央部重点測光」という2種類の測光モードを備えています。

なお、DタイプAFニッコールを装着すると、さらに距離情報を加味した「3D-6分割マルチパターン測光」となります。（☞ P.69）

設定機能一覧

背面表示パネルからできること

項目	表示	工場出荷時	説明	参照ページ
ホワイトバランス設定	AUTO／晴れ／日陰／蛍光灯1／蛍光灯2／蛍光灯3／電球／カスタム	AUTO	撮影時の環境･照明光に合わせてホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定します。	P.40
感度設定	320／400／800／1600	400	室内の撮影などでストロボを使わずに明るく撮影したいときや高速シャッターをきりたいとき（手ブレ防止）に設定します。	P.42
クオリティー（画質）設定	Basic／Normal／Fine／Hi	Normal	画像のクオリティー（画質）を設定できます。	P.43
ピクセル（画素数）設定	3040／2304／1440	3040	画像の画素数（画像サイズ）を設定できます。	P.44
カラー設定	STD／HIGH／ORG／B/W	STD	画像の色の濃さを設定できます。	P.45
階調設定	STD／HARD／ORG	STD	画像のコントラストを設定できます。	P.46
シャープネス設定	STD／HARD／OFF	STD	画像のシャープネスを設定できます。	P.47
多重露光設定	OFF／ON	OFF	多重露光撮影を行うか行わないかを設定できます。	P.48

＊日時が設定されていない状態（☞P.22）で、カメラの電源スイッチをOFFにすると、背面表示パネルからの設定値とカラー液晶モニターのセットアップメニューからの設定値は工場出荷時の設定に戻ります。

カラー液晶モニターのセットアップメニューからできること

項目	表示	工場出荷時	説明	参照ページ
プレビュー（PREVIEW）	OFF／ON／ON自動記録（OFF／MANUAL REC／AUTO REC）	OFF	撮影した画像をプレビュー表示で確認するかどうかを設定します。	P.49
カスタムWB設定（CUSTOM WB）	EXE（EXE）	ー	ホワイトバランスを独自に設定することができます。	P.50
Hiモード（Hi MODE）	TIFF-RGB／TIFF-YC（TIFF-RGB／TIFF-YC）	TIFF-RGB	クオリティー（画質）設定を「Hi」にしたときのTIFFフォーマットを、「RGB」データにするか、「YC」データにするかを設定できます。	P.51
メディア（MEDIA）	スマートメディア／CF Type II（SmartMedia／CF Type II）	スマートメディア	使用するメディアの種類を設定できます。	P.51
セルフタイマー（SELFTIMER）	2秒／10秒（2sec.／10sec.）	10秒	セルフタイマーで撮影するとき、シャッターボタンを押してから撮影が行われるまでの時間を設定できます。	P.52
オートパワーオフ（AUTO POWER OFF）	2分／5分／OFF（2min.／5min.／OFF）	2分	何も操作しないとき、自動的に電源を切るかどうか、またその時間を設定します。	P.52
コマNo.メモリー（FRAME No.）	ON／OFF（ON／OFF）	OFF	コマNo.メモリーの機能を利用するかどうかを設定できます。	P.53
PCモード（PC MODE）	転送／撮影（DOWNLOADING／SHOOTING）	転送	PCモードの設定ができます。	P.54
ビープ音（BEEP）	OFF／HIGH／LOW（OFF／HIGH／LOW）	HIGH	ビープ音についての設定ができます。	P.54
言語/LANGUAGE（言語/LANGUAGE）	日本語／ENGLISH（日本語／ENGLISH）	日本語	セットアップメニュー表示の言語を設定できます。	P.55
日時設定（DATE／TIME）	EXE（EXE）	ー	日時を設定できます。	P.23
ユーザー設定リセット（RESET）	EXE（EXE）	ー	カラー液晶モニターと背面表示パネルから設定した内容をリセットします。	P.55、56

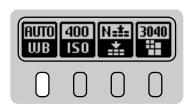
＊（　）内は「言語/LANGUAGE」を［ENGLISH］に設定したときに表示されます。

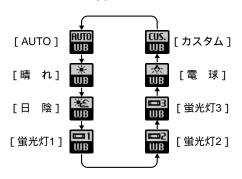
背面表示パネル

ホワイトバランス設定

■さまざまな光源に応じたホワイトバランスを設定することで、被写体本来の色を自然に再現し、雰囲気を生かした撮影ができるようにします。

1 "FUNC" ボタンを押します。

2 背面表示パネルにホワイトバランス設定のアイコン WB が表示されますので、ファンクションボタン[1]を押します。

ホワイトバランスが［AUTO］の場合

・ファンクションボタン[1]を押すごとに、表示は次のように変化します。

・ファンクションボタン[1]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[1]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。

- 「ホワイトバランス設定」で設定できるのは以下のような内容です。

表示	名称	説明
AUTO WB	AUTO	その場の光量や色情報を自動的に判断し、自然なホワイトバランスで撮影できます。
☀ WB	晴れ	晴れた日の屋外など、太陽を光源とする撮影のときに設定します。
WB	日陰	日陰や曇った日の撮影のときに設定します。
1 WB	蛍光灯1	光源が昼光色蛍光灯のときに設定します。
2 WB	蛍光灯2	光源が昼白色蛍光灯のときに設定します。
3 WB	蛍光灯3	光源が白色蛍光灯のときに設定します。
WB	電球	光源が電球や白熱灯のときに設定します。
CUS. WB	カスタム	撮影者がセットアップメニューで設定（☞P.50）したホワイトバランスになります。

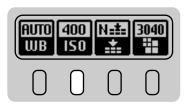
- 工場出荷時の設定は［AUTO］です。
- ストロボ発光時は、［カスタム］以外のホワイトバランス設定は無効になりますので、意図した撮影の場合、ストロボは発光させないでください。（☞P.76-79）

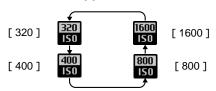
2

感度設定

ISO感度を、320、400、800、1600にそれぞれ設定することができます。

1 "FUNC" ボタンを押します。

2 背面表示パネルにISO感度設定のアイコン ISO が表示されますので、ファンクションボタン[2]を押します。

ISO感度設定が［ISO400］の場合

- ファンクションボタン[2]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- ファンクションボタン[2]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[2]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
- 「感度設定」で設定できるのは以下のような内容です。

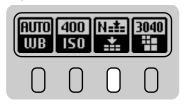
表示	名称	説明
320 ISO	ISO320	ISO感度を320に設定します。
400 ISO	ISO400	ISO感度を400に設定します。
800 ISO	ISO800	ISO感度を800に設定します。
1600 ISO	ISO1600	ISO感度を1600に設定します。

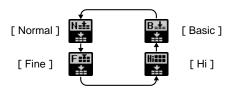
- 工場出荷時の設定は［400］です。

クオリティー（画質）設定

■画像のクオリティー（画質）を設定します。
クオリティーを高く設定すると、保存できる画像の枚数が少なくなり、クオリティーを低く設定すると、保存できる画像の枚数は多くなります。

1 "FUNC" ボタンを押します。

2 背面表示パネルにクオリティー（画質）設定のアイコン が表示されますので、ファンクションボタン[3]を押します。

圧縮率設定が［Normal］の場合

- ファンクションボタン[3]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- ファンクションボタン[3]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[3]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
- 「クオリティー（画質）設定」で設定できるのは以下のような内容です。

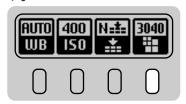
表示	名称	説明
	Basic	画質は最も低くなりますが、記録できる画像の枚数は最も多くなります。
	Normal	3番目に高い画質で記録します。記録できる画像の枚数はFineよりも多くなります。
	Fine	Hiについで高い画質で記録します。記録できる画像の枚数はHiよりも多くなります。
	Hi	非圧縮で、最高画質の画像を記録するときに設定します。記録できる画像枚数は最も少なくなります。

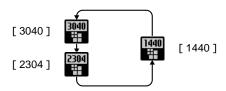
- 工場出荷時の設定は［Normal］です。

背面表示パネル ピクセル（画素数）設定

■撮影した画像を記録しておく画素数（画像サイズ）を設定します。

1 "FUNC" ボタンを押します。

2 背面表示パネルにピクセル（画素数）設定のアイコン が表示されますので、ファンクションボタン[4]を押します。

ピクセル（画素数）設定が［3040×2016ピクセル］の場合

・ファンクションボタン[4]を押すごとに、表示は次のように変化します。

・ファンクションボタン[4]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[4]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
・「ピクセル（画素数）設定」で設定できるのは以下のような内容です。

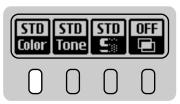
表示	名称	説明
3040	3040	画素数を3040×2016ピクセルに設定します。 記録できる画像の枚数は最も少なくなります。
2304	2304	画素数を2304×1536ピクセルに設定します。
1440	1440	画素数を1440×960ピクセルに設定します。 記録できる画像の枚数は最も多くなります。

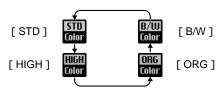
・工場出荷時の設定は［3040］です。

背面表示パネル カラー設定

■画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。

1 "FUNC" ボタンを2回押します。

2 背面表示パネルにカラー設定のアイコン Color が表示されますので、ファンクションボタン[1]を押します。

カラー設定が［STD］の場合

- ファンクションボタン[1]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- ファンクションボタン[1]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[1]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
- 「カラー設定」で設定できるのは以下のような内容です。

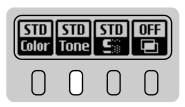
表示	名称	説明
STD Color	STD	色の濃さを標準に設定します。
HIGH Color	HIGH	色の濃さを標準よりも濃くするときに設定します。
ORG Color	ORG	色の濃さを標準よりも薄くするときに設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。
B/W Color	B/W	撮影した画像の色を白黒にするときに設定します。

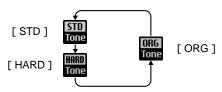
- 工場出荷時の設定は［STD］です。
- 画像データをそのまま観賞したり、プリントする場合は［ORG］は選択しないでください。

階調設定

■画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。

1 "FUNC" ボタンを2回押します。

2 背面表示パネルに階調設定のアイコン Tone が表示されますので、ファンクションボタン[2]を押します。

階調設定が［STD］の場合

- ファンクションボタン[2]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- ファンクションボタン[2]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[2]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
- 「階調設定」で設定できるのは以下のような内容です。

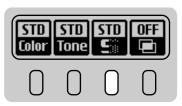
表示	名称	説明
STD Tone	STD	撮影された画像のコントラストを標準に設定します。
HARD Tone	HARD	画像のコントラストを標準より強くし、メリハリのある画像にするときに設定します。
ORG Tone	ORG	標準よりもコントラストを低く設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

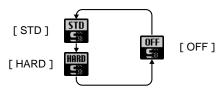
- 工場出荷時の設定は［STD］です。
- 画像データをそのまま観賞したり、プリントする場合は［ORG］は選択しないでください。

背面表示パネル シャープネス設定

■輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

1 "FUNC" ボタンを2回押します。

2 背面表示パネルにシャープネス設定のアイコン が表示されますので、ファンクションボタン[3]を押します。

シャープネス設定が［STD］の場合

- ファンクションボタン[3]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- ファンクションボタン[3]を押しながら、十字ボタンの "▲" を押しても、同様に選択できます。ファンクションボタン[3]を押しながら、十字ボタンの "▼" を押すと、逆順に選択できます。
- 「シャープネス設定」で設定できるのは以下のような内容です。

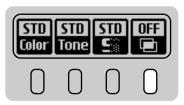
表示	名称	説明
	STD	通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。
	HARD	輪郭を強調します。建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。
	OFF	シャープネス処理をかけていません。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

- 工場出荷時の設定は［STD］です。
- 画像データをそのまま観賞したり、プリントする場合は［OFF］は選択しないでください。

多重露光設定

■多重露光撮影（☞ P.84）を行うか、行わないかを設定します。

1 "FUNC" ボタンを2回押します。

2 背面表示パネルに多重露光設定のアイコン が表示されますので、ファンクションボタン[4]を押します。

多重露光設定が［OFF］の場合

- ファンクションボタン[4]を押すごとに、表示は次のように変化します。

- 「多重露光設定」で設定できるのは以下のような内容です。

表示	名称	説明
OFF	OFF	多重露光撮影を行わないときに設定します。
ON	ON	多重露光撮影を行うときに設定します。

- 工場出荷時の設定は［OFF］です。

プレビュー

■撮影を行った後、画像のプレビューを行うかどうかを設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「プレビュー」を選択し、十字ボタンの " ◀ ▶ " を押してプレビューの設定を行います。

3 設定が終了したら、「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 「プレビュー」で設定できるのは以下のような内容です。

名称	説明
OFF	プレビュー画面は表示されず、画像は自動的に記録されます。
ON	プレビュー画面が表示され、画像を記録するかどうかを選べます。 ・記録するには、ファンクションボタン[1]を押します。 ・記録しないときは、ファンクションボタン[2]を押します。
ON／自動記録	プレビュー画面が約1秒間表示され、画像は自動的に記録されます。

- 工場出荷時の設定は［OFF］です。
- プレビューを行う設定にして記録すると、記録が終了するまでシャッターはきれません。

注意　プレビュー［ON］機能について

・プレビュー［ON］は露出や画角合わせなどのテスト撮影に便利な機能ですが、記録操作を行なわないと記録されません。通常の撮影ではプレビューを［OFF］または［ON／自動記録］にしておくことをおすすめします。

セットアップメニュー

カスタムWB設定

■ホワイトバランスをカスタム設定します。

1 **"MENU/EXE" ボタンを押します。**

2 **十字ボタンの "▲▼" を押して、「カスタムWB設定」を選択し、"MENU/EXE" ボタンまたは十字ボタンの "◀▶" を押します。**
フォーカスモード切り換えダイヤルを「M」（マニュアルフォーカス）に設定します。（☞P.58）

- カラー液晶モニターに "SET OK?" と表示されます。

3 **白い紙など、白の基準となるものを中央部重点測光エリア（☞P.15）より広い範囲に入るように撮影します。**
撮影された画像が有効かどうかが表示されます。

GOOD !	OVER EXPOSURE
UNDER EXPOSURE	OUT OF RANGE

- 撮影された画像が有効でないときのメッセージと対処方法は次のとおりです。

OVER EXPOSURE:	被写体が明るすぎるので、一側の露出補正をかけるか、暗い被写体を選ぶか、照明を暗くして、再度手順3から繰り返してください。
UNDER EXPOSURE:	被写体が暗すぎるので、＋側の露出補正をかけるか、明るい被写体を選ぶか、照明を明るくして、再度手順3から繰り返してください。
OUT OF RANGE:	カスタムWB設定の補正範囲を超えています。最大補正値が設定されます。再設定したい場合は、"CANCEL" ボタンを押して、再度手順3から繰り返してください。

- ホワイトバランスを合わせられる色温度範囲は、約2800K〜約9500Kです。

4 **撮影された画像が有効なとき（「GOOD!」が表示されたとき）は、"MENU/EXE" ボタンを押します。**
有効でないときは、手順3の対処方法にしたがってください。

- 設定を中止するときは、"CANCEL" ボタンを押します。

5 **設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。**

Hiモード／メディア

Hiモード

クオリティー（画質）設定を「Hi」にしたときのTIFFデータのフォーマットを設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「Hiモード」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押してHiモードの設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 「Hiモード」で設定できるのは以下のような内容です。

名称	説明
TIFF-RGB	TIFFフォーマットを、R/G/Bデータ（☞P.110）に設定します。
TIFF-YC	TIFFフォーマットを、Y/Cデータ（☞P.110）に設定します。

- 工場出荷時の設定は［TIFF-RGB］です。
- TIFF-YCの画像をパソコンで扱うには、TIFF-YC対応のアプリケーションソフト（弊社製USBインターフェースセット IF-UB/S1付属のソフトなど）が必要です。

メディア

画像をスマートメディアに記録するか、マイクロドライブ（CF Type II）に記録するかを設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「メディア」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、メディアを選択します。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 工場出荷時の設定は［スマートメディア］です。
- 一方のメディアしか入っていないときは、この設定にかかわらず、入っているメディアに記録されます。

セルフタイマー／オートパワーオフ

セルフタイマー

セルフタイマーで撮影するときのシャッターがきれるまでの時間を、2秒または10秒に設定します。セルフタイマー撮影については、P.72をご覧ください。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「セルフタイマー」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、設定時間（2秒／10秒）を設定します。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 工場出荷時の設定は［10秒］です。
- ［2秒］のセルフタイマーは三脚使用時のブレ防止に便利です。

オートパワーオフ

何も操作していないときに電源を自動的に切るかどうかを設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「オートパワーオフ」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、オートパワーオフの設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 「オートパワーオフ」で設定できるのは以下のような内容です。

名称	説明
2分	2分間何も操作しないと、電源が自動的に切れます。
5分	5分間何も操作しないと、電源が自動的に切れます。
OFF	オートパワーオフの機能を解除します。

- 工場出荷時の設定は［2分］です。
- オートプレイ時やUSB接続時は設定にかかわらず、オートパワーオフしません。

コマNo.メモリー

■「コマNo.メモリー」とは、メディア（スマートメディア／マイクロドライブ）に保存した「最終ファイルNo.」を覚えておき、新しいメディアに取り替えたときも、その番号から続けてファイルNo.をつける機能です。この機能の設定を行います。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

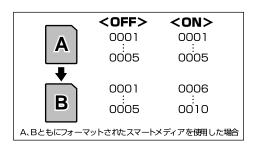
2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「コマNo.メモリー」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、コマNo.メモリーの設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 「コマNo.メモリー」で設定できるのは以下のような内容です。

名称	説明
OFF	メディアごとにファイルのNo.0001から撮影します。
ON	最後に使用したメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影します。

- 工場出荷時の設定は［OFF］です。

A、Bともにフォーマットされたスマートメディアを使用した場合

- 新しいメディアに記憶した「最終ファイルNo.」より大きいファイルNo.の画像があった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

2

PCモード／ビープ音

PCモード

パソコンと接続したとき、本機からパソコンへの画像の転送を行うか、パソコンから本機の撮影制御を行うかを設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「PCモード」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、PCモードの設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 「PCモード」で設定できるのは以下のような内容です。

名称	説明
転送	本機からパソコンへの画像の転送を行うときに設定します。
撮影	パソコンから本機の撮影制御を行うときに設定します。

- 工場出荷時の設定は［転送］です。
- パソコンへの接続についてはP.111をご覧ください。

ビープ音

ビープ音を、「HIGH」「LOW」「OFF」に設定します。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「ビープ音」を選択し、十字ボタンの "◀▶" を押して、ビープ音の設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 工場出荷時の設定は［HIGH］です。

言語/LANGUAGE／ユーザー設定リセット

言語/LANGUAGE

セットアップメニューの表示言語を、日本語にするか英語にするかを設定します（セットアップ以外のメニューは英語表記のみで、日本語には設定できません）。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「言語/LANGUAGE」を選択し、十字ボタンの " ◀ ▶ " を押して、言語の設定を行います。

3 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 工場出荷時の設定は［日本語］です。

ユーザー設定リセット

カラー液晶モニターおよび背面表示パネルで設定した内容をリセットします。

1 "MENU/EXE" ボタンを押します。

2 十字ボタンの "▲▼" を押して、「ユーザー設定リセット」を選択します。

3 メニューで設定した内容をリセットするときは、"MENU/EXE" ボタンを押します。"RESET OK?"と表示されます。

- リセットされる項目の一覧はP.56をご覧ください。

4 リセットする場合は "MENU/EXE" ボタンを押します。リセットしない場合は "CANCEL" ボタンを押します。

5 設定が終了したら、十字ボタンの "▲▼" を押して「設定終了」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

ユーザー設定リセット－つづき－／カメラ機能設定リセット

「ユーザー設定リセット」でリセットされる項目

- 背面表示パネルから設定する項目

項目	リセット後
ホワイトバランス設定	AUTO
感度設定	400
クオリティー（画質）設定	Normal
ピクセル（画素数）設定	3040
カラー設定	STD
階調設定	STD
シャープネス設定	STD
多重露光設定	OFF

- カラー液晶モニターのメニューから設定する項目

項目	リセット後
プレビュー	OFF
Hiモード	TIFF-RGB
メディア	スマートメディア
セルフタイマー	10秒
オートパワーオフ	2分
コマNo.メモリー	OFF
PCモード	転送
ビープ音	HIGH
言語/LANGUAGE	日本語
マルチ再生モード	OFF

カメラ機能設定リセット

上面表示パネルから設定した内容をリセットします。

1 露出補正ボタン " " と絞りボタン " " を2秒以上押し続けます。

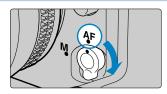
- リセットされる機能は以下のような内容です。

「カメラ機能設定リセット」でリセットされる機能

機能	リセット後
プログラムシフト	解除されます。
露出補正	解除されます。
シンクロモード	露出モードが夜景（イメージプログラム）のときはスローシンクロ、その他の場合はノーマルシンクロになります。
セルフタイマー	解除されます。

- 各機能の初期状態や組み合わせについては、P.80もご覧ください。

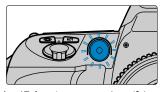
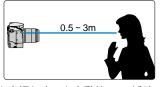
フォーカスモードについて

AF（オートフォーカス）にセットした場合

- フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットし、シャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的に被写体にピントを合わせ、ファインダー内表示のピント表示 ●が点灯して合焦状態であることを知らせます。

  オートAFサーボ（AF-A）：
  被写体が静止しているか、移動しているか、および移動の方向をカメラが判断し、状況に合わせてシングルAFサーボ（AF-S）かコンティニュアスAFサーボ（AF-C）のどちらかをカメラが自動的に選択します。

  - シングルAFサーボ（AF-S）：
    ピントが被写体に合うと、そこで固定（フォーカスロック）されます。
  - コンティニュアスAFサーボ（AF-C）：
    被写体の動きに合わせ、ピントを追い続けます。

- いずれの場合もピント表示 ●が点灯しないとシャッターはきれません。
- 露出モードをスポーツモード（イメージプログラム）にセットすると、はじめからコンティニュアスAFサーボとなり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。

AF補助光について

- 被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。照射が行われる条件は以下のとおりです。

  1.フォーカスモードがAFでAFニッコールレンズを装着し、被写体が暗いとき。
  2.露出モードが風景モードやスポーツモード以外のとき。

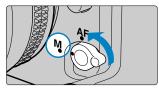
これらの条件を満たしている時に自動的に照射を行います。キャンセルはできません。使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は24～200mmです。
AF補助光が届く距離範囲の目安としては0.5～3mとなります。

注意　AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。

要点　ニコン製ストロボとアクティブ補助光について

アクティブ補助光付きのニコン製ストロボを使用して、TTLモードで撮影した場合、ニコン製ストロボ側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。使用可能なニコン製ストロボについては、P.78をご覧ください。

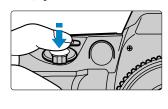
M（マニュアルフォーカス）にセットした場合

・フォーカスモード切り換えダイヤルをMにセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。ピント表示 ●の点灯、消灯にかかわらずシャッターをきることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.107）を装着しているときにご使用ください。

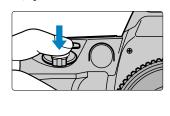
要点　フォーカスエイドについて

フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットしたとき、開放絞り値がf/5.6より明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示のピント表示によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。レンズの距離リングを回してピント表示 ●を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。

フォーカスロック撮影

■AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合、主要被写体（ピントを合わせたいものや人物など）がフォーカスフレームから外れる構図の時に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体にも有効です。

1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとピント表示 ●が点灯して、シャッターボタンの半押し中は、ピントがそのまま固定されます。
- 露出モードがスポーツモード（イメージプログラム）の時は、フォーカスロック撮影は行えません。
- 移動していた被写体が静止した場合（コンティニュアスAFからシングルサーボAFに切り換わった場合）にフォーカスロックを行うときは、一度シャッターボタンから指を離して、半押しし直してください。

2 ピント表示 ●が点灯したら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。

- ピント表示 ●の点灯後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。シャッターをきった後も指を離さず、半押し状態からさらにシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。

各露出モードによる撮影

AUTO：AUTO（オート）

最も簡単に撮影できる露出モードです。露出はカメラまかせで撮影できます。一眼レフをはじめてお使いになる方におすすめの露出モードです。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

1 **露出モードダイヤルを "AUTO" にセットします。**

・AUTO（AUTOモード）にセットすると、各機能は下記の状態になります。
測光モード　　：マルチパターン測光（☞ P.69）
ストロボ　　　：ϟ ノーマルシンクロモード（☞ P.74）
・プログラムシフト、露出補正、スローシンクロはセットできません。

2 **ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。**

・次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
　・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
　・Lo：ストロボを使用してください。

> **要点**　AUTO（オート）とマルチプログラムオートの違いについて
>
> 露出制御方法は同じですが、マルチプログラムオートでは、さらにプログラムシフト（☞ P.61）、露出補正（☞ P.71）、スローシンクロモード（☞ P.75）がセットできますので、撮影状況に対してより柔軟に対応することが可能です。

P：マルチプログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフトや露出補正（☞ P.71）などの併用により、高度な撮影も楽しめます。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

1 露出モードダイヤルを " P " にセットします。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

・次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

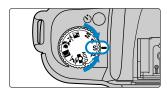
・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：ストロボを使用してください。

要点　プログラムシフトについて

マルチプログラムオートで撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができ、シャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は上面表示パネルに " P* "が点灯します。解除は、変更したシャッタースピードと絞りの組み合わせを元の値に戻す、他の露出モードに切り替える、電源スイッチをOFFにする、内蔵ストロボを使用する（☞ P.74)、カメラ機能設定リセットを行う（☞ P.56）などで行えます。

S：シャッター優先オート

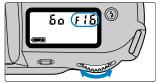
撮影者がシャッタースピード（30秒～1/2000秒）をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の一瞬の動きを速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

1 **露出モードダイヤルを"S"にセットして、コマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/2000秒）をセットします。**

2 **ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。**

- 次の警告がファインダー内表示や上面表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  - Hi：シャッタースピードをより高速側にセットします。それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：シャッタースピードをより低速側にセットします。それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。
- 長時間露光時に"CANCEL"ボタンを押しても撮影は中断されません。

A：絞り優先オート

撮影者が絞り値（最小絞り～開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、ストロボ撮影時には、絞り値を変えることにより調光範囲の変更も行えます（☞ P.74）。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

1 露出モードダイヤルを " A " にセットして、コマンドダイヤルで絞り値（最小絞り～開放絞り）をセットします。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- 次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  - HI：より大きい数値の絞り値にします。それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：より小さい数値の絞り値にします。それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。

3

M：マニュアル

シャッタースピード（30秒〜1/2000秒）も絞り値（最小絞り〜開放絞り）も、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

1 露出モードダイヤルを"M"にセットして、構図を決めます。

・M：マニュアル時の測光モードは、マルチパターン測光から中央部重点測光に自動的に切り替わります（☞ P.69）。

2 露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞り値をセットします。

・シャッタースピード（30秒〜1/2000秒）はコマンドダイヤルでセットします。
・絞り値（最小絞り〜開放絞り）は絞りボタン" "を押しながら、コマンドダイヤルでセットします。
・シャッタースピードと絞りはどちらを先にセットしてもかまいません。

要点　露出インジケーターについて

露出インジケーターの見方は右のとおりです。セットしてあるシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。

適正または0.5段未満のアンダーかオーバー

0.5段以上1.5段未満のアンダー

1.5段以上オーバー

3 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

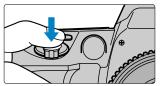
・このモードでのみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズが使用できます。ただし、カメラの露出計の使用や、絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞り値のセットはできません。詳細はP.106の「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください。

イメージプログラムによる撮影

イメージプログラムとは

イメージプログラムでは、被写体の動きを考慮したシャッタースピード、被写界深度（ピントの合う範囲）やレンズのボケ具合までも考慮した絞り値など、撮影シーンや被写体に合わせたプログラムがモードごとに用意されており、イメージに近い写真がより簡単に撮影できます。
他の機能との組み合わせは、P.80をご覧ください。

イメージプログラムの撮影方法

露出モードダイヤルを希望するイメージプログラム表示にセットし、ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

・次の警告がファインダー内表示や上面表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

・Hi：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：ストロボを使用してください。

☞ 注意　イメージプログラム撮影時の注意点

5つのイメージプログラムでは、プログラムシフト（☞ P.61）、露出補正（☞ P.71）は解除されます。また、ストロボを使用する場合は、各モードによってシンクロモードが自動的に切り替わります（☞ P.76）。

イメージプログラムの種類と特長

：ポートレートモード

絞りを開放絞り（小さい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を浅くして（ピントの合う前後の範囲を狭くして）背景をきれいにボカし、被写体の人物を浮き立たせた立体感のある写真が撮影できます。
おすすめのレンズ：50mm～135mm程度の明るいレンズが効果的です。

：風景モード

絞りを最小絞り（大きい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を深くして（ピントの合う前後の範囲を広くして）、近景から遠景までピントの合った風景写真が撮影できます。
広角から望遠レンズまで使用可能です。

- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

：クローズアップモード

絞りを開放側に設定した露出制御により、被写界深度を比較的浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。
おすすめのレンズ：マイクロニッコールレンズが効果的です。

- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

：スポーツモード（連写撮影）

シャッタースピードが速くなるように設定した露出制御により、動きの激しい被写体の一瞬の動きを写し止めた、躍動感のあるスポーツ写真が撮影できます。
おすすめのレンズ：80mm～300mm程度の望遠レンズが効果的です。

- スポーツモードでは、コンティニュアスAFサーボに切り替わりフォーカスロックは行わずに被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。また、「プレビュー」（☞P.49）が［OFF］に設定されている場合、シャッターボタンを押している間は連続撮影を行います。連続撮影コマ数は最大5コマまでです。
- 撮影可能枚数が反転表示している場合は、シャッターはきれません。

☞注意　撮影可能枚数表示が少ない場合に連写するときのご注意

撮影可能枚数表示が少ない場合に連写をすると連写を開始したときの表示枚数より少ない撮影枚数でも警告音がなり、一時的に撮影枚数が0になることがあります。

：夜景モード

暗い被写体に適した露出制御により、美しい夕景写真や夜景写真が撮影できます。
また、夜景を背景に人物を撮影する際、ストロボを使用すればその両方を自然に表現できます。
広角から望遠レンズまで使用可能です。

- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

測光モードについて

■このカメラの測光は、通常マルチパターン測光で行いますが、露出モードをマニュアルにセットしたときや、AEロック（☞ P.70）使用時は、自動的に中央部重点測光に切り替わります。

マルチパターン測光・3D-6分割マルチパターン測光

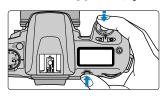
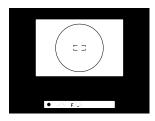
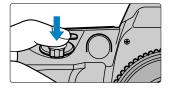
マルチパターン測光は撮影画面を図のように6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて最適な露出値を決定します。さらにDタイプAFレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、レンズから被写体までの距離情報を加味し測光の精度を高めた、3D-6分割マルチパターン測光となります。露出モードをマニュアルにセットしたときや、AEロック（☞ P.70）使用時以外はすべてこの方式で測光します。

中央部重点測光

中央部重点測光はファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、φ12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。露出モードをマニュアルにセットしたとき（☞ P.64）や、AEロック使用時（☞ P.70）は、自動的にこの方式に切り替わります。

AEロック撮影

■適正露出で撮りたい部分に合わせた露出を、固定したまま撮影できます。AEロックボタン "AE-L" を押してその露出をカメラに記憶させ、同じ露出のままポーズや構図を変えて撮影する場合などに有効です。測光モードは選択している露出モードに関係なく、中央部重点測光に切り替わります。

1 被写体を画面中央に大きくとらえて、シャッターボタンを半押ししたままAEロックボタン "AE-L" を押します。

2 AEロックボタン "AE-L" を押したまま撮影したい構図に戻し、ピントを合わせて撮影します。

露出補正

■露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの高いものがあるときに段階的に露出をずらして撮影する場合などに使用します。このカメラでは、1/3段ステップで±3段の露出補正が行えます（AUTOとイメージプログラムモードでは露出補正は行えません）。

1 露出補正ボタン"☒"を押しながら、コマンドダイヤルで、補正量をセットします。

・露出インジケーターの表示例

−0.3段補正

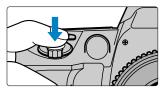
＋2段補正

・補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク"☒"が点灯し、補正量の確認は露出補正ボタンを押すだけで行えます（露出インジケーターも表示されます）。
・内蔵およびニコン製ストロボ使用時は、ストロボ側の発光量も同じ量だけ調光補正が行われます。ただし、以下の制限があります。

露出補正によるストロボ最大発光補正量

ISO	320	400
＋補正	3段	3段
-補正	約1.5段	約1段

・補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

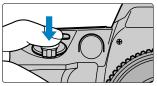
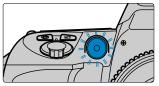
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・露出補正を解除する場合は、露出補正ボタンを押しながら、コマンドダイヤルで補正量を0にセットするか、カメラ機能設定リセット（☞ P.56）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

セルフタイマー撮影

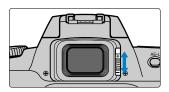
■記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 セルフタイマーボタン"　"を押して上面表示パネルに"　"を点灯させます。

- AF（オートフォーカス）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- 適正露出に影響を与えますので、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、逆入光を防ぐためシャッターボタンを押す前に手、または付属のアイピースキャップ（☞ P.73）で接眼部を覆ってください。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

2 構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押します。

- 作動を開始すると、セルフタイマーの設定が［10秒］のときは上面表示パネルの"　"は10秒間点滅し、セルフタイマーランプは8秒間点滅したあと2秒間点灯して、シャッターがきれます。また、赤目軽減モード（☞ P.75）をセットしているときは、最後の2秒間のランプの点灯が、赤目軽減モード撮影時の明るさになります。
- 解除する場合は、作動前、作動中にかかわらず、再度セルフタイマーボタン"　"を押すか、電源スイッチをOFFにします。また、カメラ機能設定リセット（☞ P.56）でも解除できます。

視度調節機能／アイピースキャップについて

■視度調節機能により、カメラファインダーをのぞいたとき、ファインダー内の像を確認しやすくできます。

・ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレームが、最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせます。視度調節は－1.5～＋1.0dpt（近視～遠視）の間で可能です。また、ニコン製の接眼補助レンズは－5.0～＋3.0dptの間で9種類が用意されています。

☞ 注意　視度調節レバーをスライドさせる際のご注意

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

■アイピースキャップや接眼補助レンズ等のファインダーアクセサリーの取り付け方

・アイピースキャップや接眼補助レンズをカメラのファインダー接眼部に取り付ける場合は、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。また、アイピースキャップや接眼補助レンズを取り外して接眼目当てを取り付ける場合は、接眼目当てに表記されている「Nikon DK-10 JAPAN」の文字が下になるように取り付けます。

ストロボ撮影

内蔵ストロボとTTL-BL調光について

このカメラには28mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー15（ISO100・m）のストロボが内蔵されています。このストロボはマルチパターン測光で得た明るさの情報をもとに、主要被写体と背景の露出を考慮してストロボの発光量をバランスよくコントロールするTTL-BL調光を行いますので、自然な感じのストロボ写真が撮影できます（CPU内蔵ニッコールレンズ使用時）。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影でも主要被写体の陰影を弱めたいときや人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに補助光としてもご使用いただけます。
また、このカメラは、ノーマルシンクロ（通常のシンクロモード）、赤目軽減、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロモードの4つのシンクロモードを備えています。

- CPU内蔵ニッコール以外のレンズでは、背景の露出が考慮されない、TTL調光となります（できるだけ、CPU内蔵ニッコールレンズをご使用ください）。

調光範囲（光の届く範囲）について

ストロボは、設定したISO感度と絞りによって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。内蔵ストロボの場合は下表を参考にしてください。

ISO感度　＜＞内ガイドナンバー	320 ＜27＞	400 ＜30＞
FNO	調光範囲	調光範囲
2.8	2.2〜10.3m	2.5〜11.5m
4	1.8〜8.7m	2.0〜9.7m
5.6	1.3〜6.3m	1.5〜6.8m
8	0.8〜4.3m	1.0〜4.8m
11	0.8〜3.2m	1.0〜3.6m

- 1m程度の近距離撮影を行う場合は、A絞り優先の露出モードを選択し、Fナンバーを8以上に絞ってお使いください。
- 感度をISO800、ISO1600に設定したときは、内蔵ストロボは発光しますが適正な調光ができない場合があります。
  プレビューモードで露出を確認して撮影してください。

シンクロモードの種類と特長

⚡👁：赤目軽減モード

赤目軽減モードにセットしてストロボ撮影を行えば、ストロボが発光する前に赤目軽減ランプが約1秒間点灯して、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます。

⚡SLOW：スローシンクロモード

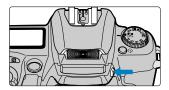
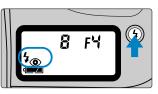
ストロボ撮影では、通常シャッタースピードが1／125秒に自動的にセットされますが、このモードでは背景の露出が考慮されてより低速域まで制御されます。したがって、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

- 赤目軽減モードとスローシンクロモードは、上面表示パネルに赤目軽減スローシンクロ表示"⚡SLOW👁"を点灯させることにより、同時にセットすることもできます。
- セット可能なシンクロモードは、露出モードによって異なる場合があります。各シンクロモードと各露出モードの組み合わせは、P.80の「各モードの組み合わせについて」をご覧ください。

☞ 注意　シンクロモードごとのご注意

- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間赤目軽減ランプ（☞ P.10）が点灯した後ストロボが発光しますので、シャッターがきれるまでカメラや被写体の人物が動いたりしないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 装着するレンズによっては赤目軽減ランプの光がレンズによってケラレ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果が損なわれることがあります。
- スローシンクロモードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッタースピードが遅くなりますので手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

内蔵ストロボの撮影方法

1 **ストロボロック解除ボタンを押してストロボを上げ、シンクロモードボタン "⚡" を押しながらコマンドダイヤルを回してシンクロモードをセットします。**

- ストロボを上げると充電が開始され、完了するとファインダー内にレディライト "⚡" が点灯します。
- ノーマルシンクロ "⚡" をセットしたときは、シンクロモードボタン "⚡" から指を離すと上面表示パネルの "⚡" は消灯します。
- ストロボを収納するときは手で軽く押し下げます。
- 電池型アダプター使用時は内蔵ストロボはご使用できません。

2 **露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。**

- 露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
AUTOモード	カメラが自動的にセット	カメラが自動的にセット	☞ P.60
マルチプログラムオート			☞ P.61
イメージプログラム			☞ P.66
シャッター優先オート	1/125秒～30秒※1		☞ P.62
絞り優先オート	カメラが自動的にセット	任意の絞り※2	☞ P.63
マニュアル	1/125秒～30秒※1		☞ P.64

※1：1/125秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、内蔵ストロボを上げると（ニコン製ストロボの場合は電源をONにすると）自動的に1/125秒にセットされます。

※2：調光範囲は設定したISO感度と絞りによって決まります。絞り優先オートまたはマニュアル時の絞りのセットは、P.74の調光範囲を考慮して行ってください。

3 ファインダー内にレディライト"ϟ"が点灯していることを確認し、調光範囲（☞ P.74）を考慮して撮影します。

- シャッターをきった後レディライト"ϟ"が約3秒間点滅した場合は、フル発光して露出不足の恐れがあります。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
- AF（オートフォーカス）で撮影時に被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光（☞ P.57）を照射してピントを合わせます。
- 露出モードがAUTOまたはマルチプログラムオートの時、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は設定したISO感度により異なります。P.79をご覧ください。

ストロボ発光量について

構図によっては、ストロボ発光量が変動し、意図した主被写体の露出がずれる場合があります。その際は、露出補正（☞P.71）をし、撮影を行ってください。

内蔵ストロボに使用可能なレンズについて

内蔵ストロボには、28mmから200mmまでのCPU内蔵ニッコールレンズが使用可能です。

- AF300mm f/4はご使用になれます。
- AF-S17～35mm f/2.8、AF20～35mm f/2.8はご使用になれません。
- レンズフードは取り外して使用してください。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、画像の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

ケラレの起きるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
AF24～50mm f/3.3～4.5	35mm以上で使用可能
AF24～120mm f/3.5～5.6	35mmの1.5m以上と50～70mmの1m以上で使用可能
AF-S ED 28～70mm f/2.8	70mmの1.2m以上で使用可能
AF28～85mm f/3.5～4.5	35mmの1.5m以上で使用可能
AF28～200mm f/3.5～5.6	35mm以上で使用可能
AF35～70mm f/2.8	50mm以上で使用可能
AF70～180mm f/4.5～5.6	70mmの1.5m以上と85mmの1m以上で使用可能
AF-S ED 80～200mm f/2.8	105mm以上で使用可能 ただし105mmで2m以内は使用不可

使用可能なニコン製ストロボについて

使用可能なニコン製ストロボと可能な撮影は下表のとおりです（内蔵ストロボとニコン製ストロボを同時に使用することはできません）。装着レンズはCPU内蔵ニッコールレンズを基準に説明しています（CPU内蔵ニッコールレンズ以外のレンズのご使用はおすすめできません）。

可能な撮影／ストロボ名	TTL-BL調光（※1）	外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	スレーブ発光
SB-28	○	○	○	○	－
SB-27	○	○	○	－	－
SB-26	○	○	○	○	○
SB-25 SB-24	○	○	○	○	－
SB-23 SB-21B（※2）	○	－	○	－	－
SB-22 SB-22s SB-20 SB-16B SB-15	○	○	○	－	－
SB-11（※3） SB-14（※3） SB-140（可視光）（※3）	○	○	○	－	－

※1：露出モードをマニュアルにセットした場合、簡易的なTTL-BL調光（☞P.74）となります。
※2：SB-21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm、105mm、200mm、70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。
※3：SB-11、14、140を使用してTTLモードを使用する場合は、接続にニコン製のTTL調光コードSC-23が必要です。
Aモード またはMモードを使用する場合は、SB-11、14 にはSC-13にニコン製センサーユニットSU-2を、SB-140にはSC-13にニコン製センサーユニットSU-3を併用するか、ニコン製ホットシューアダプターAS-15にSC-11かSC-15を併用して接続します。

- **詳細はご使用になる各ストロボの使用説明書をご覧ください。**
  TTLモードが可能なニコン製ストロボの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、Dグループカメラに該当する箇所をお読みください。

ニコン製ストロボ使用時のご注意

●ストロボ使用時の同調シャッタースピードは1/125秒以下です。
TTLモード時のISO感度連動範囲はISO320/400です。
※ISO800、ISO1600の感度に設定したとき、適正なTTL調光ができない場合があります。

●赤目軽減発光はカメラ側の赤目軽減ランプにより行います。

●ニコン製ストロボにアクティブ補助光機能がある場合、カメラ側のAF補助光の代わりにストロボ側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。ただし、TTLモード以外に設定した場合はカメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

●TTLモード以外に設定してストロボ撮影する場合は、露出モードをAまたはMに設定してください。

●露出モードがAUTOまたはPのとき、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は、設定した感度によって下表のように制御されます。

設定感度（ISO）	320	400
開放側の限界絞り値（内蔵ストロボ）	4	4
開放側の限界絞り値（ニコン製ストロボ）	5.6	5.6

※制御される絞り値よりも開放F値が暗い場合は、装着レンズの開放側のF値によって制御されます。

●近距離撮影や広範囲の撮影を行う場合には、外部自動調光ストロボをお使いになることをおすすめします。

●シンクロターミナルを必要とする際には、ニコン製のホットシューアダプターAS-15（別売）をご使用ください。

●ニコン製以外のストロボ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の小さな接点に複数の接点が触れてしまうもの）を使用しないでください。カメラの機能が正常に働かないだけでなく、カメラおよびストロボのシンクロ回路を破損することがあります。

各モードの組み合わせについて

■各露出モードと各機能の組み合わせを一覧表にしてあります。装着レンズはAFニッコール（AF-S、AF-I、IXニッコール、F3AF用を除く）を基準に説明しています。

露出モード名 ＼ 各機能	AFモード P.57	AF補助光 P.57	プログラムシフト P.61	露出補正 P.71	測光モード（※1） P.69	ノーマルシンクロ P.76	赤目軽減 P.75	赤目軽減スローシンクロ P.75	スローシンクロ P.75
AUTO オート	AF-A	○	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー
P マルチプログラム	AF-A	○	○	○	マルチパターン	○	○	○	○
S シャッター優先オート	AF-A	○	ー	○	マルチパターン	○	○	ー	ー
A 絞り優先オート	AF-A	○	ー	○	マルチパターン	○	○	○	○
M マニュアル（※2）	AF-A	○	ー	○	中央部重点	○	○	ー	ー
ポートレート	AF-A	○	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー
風景	AF-A	ー	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー
クローズアップ	AF-A	○	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー
スポーツ	AF-C	ー	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー
夜景	AF-A	○	ー	ー	マルチパターン	ー	ー	○	◎

AF-A：オートAFサーボ
AF-C：コンティニュアスAFサーボ

○：セットできます。
◎：露出モードがセットされると、自動的にこのモードにセットされます（ただし、他のシンクロモードへの切り替えも可能です）。
ー：セットできません。
※1：いずれの露出モードでも、AEロック使用時（☞ P.70）は中央部重点測光となります。
※2：CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合、露出モードがM（マニュアル）でのみ撮影が行えます。ただし、カメラの露出計の使用や絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞りのセットはできません（レンズの絞りリングでセットしてください）。また、P.106の「このカメラに使用可能なレンズについて」もご覧ください。

・各シンクロモードは、TTL-BL調光（☞ P.74）で制御されますが、露出モードをマニュアルにセットした場合は、背景の露出の考慮がややおおまかになる簡易的なTTL-BL調光となります。

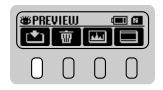
プレビュー撮影・記録

■カラー液晶モニターに撮影した画像のプレビュー画面を表示させ、その画像を記録する方法について説明します。

☞ 注意　プレビューの設定について

プレビュー画面を表示させ、その後その画像を記録するか削除するかを決めるためには、設定編の「プレビュー」（☞P.49）で、プレビューを［ON］にしておいてください。そのほかの設定になっていると、本操作を行うことはできません。また、このモードでは撮影後、記録するために下記の操作が必要です。

1 通常の方法で撮影します。

2 プレビュー表示された画像を記録するときはファンクションボタン[1]または"MENU/EXE" ボタンを押します。これ以外の操作では画像は記録されません。

記録しない場合は、ファンクションボタン[2]、"CANCEL" ボタンを押すか、またはシャッターボタンを半押しします（プレビュー表示は消えます）。

3

標準チャート表示

■標準チャート表示は、カラーバー、グレースケール表示とプレビュー画像を比較することにより、撮影した画像の色合いや輝度を確認することをいいます。

1 プレビュー画像を表示させます。（☞P.49、P.81）

2 ファンクションボタン[4]を押して、標準チャート表示します。

・ ファンクションボタン[4]をもう一度押すと、表示を消すことができます。

ヒストグラム表示

■ヒストグラムとは、画像中の明暗を分類して、その統計上の輝度分布を表すグラフのことをいいます。ここでは画像のヒストグラムを表示する方法を説明します。
ヒストグラムは、プレビュー画像と再生画像に対して、下記の5パターンを表示できます。

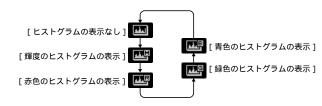
- ：画像のヒストグラムを表示しません。
- ：画像の輝度のヒストグラムを表示します。
- ：画像の赤色のヒストグラムを表示します。
- ：画像の緑色のヒストグラムを表示します。
- ：画像の青色のヒストグラムを表示します。

■プレビュー画像のヒストグラム表示を行うとき

1 プレビュー画像を表示させます。（☞P.49、81）

2 ファンクションボタン[3]を押して、表示したいヒストグラムを選択します。

「輝度」の場合

- ファンクションボタン[3]を押すたびに、背面表示パネルに表示されるヒストグラムアイコンが次のように変化します。

- 再生画像を表示しているときも同様に操作できます。
このときはファンクションボタン[1]を押してください。

多重露光

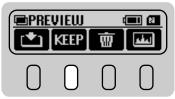
■多重露光撮影とは、ひとつの画像の上に別の画像を重ね合わせる撮影方法です。何枚でも重ね合わせることができます。

注意　多重露光の設定について

多重露光撮影を行うには、設定編の「多重露光設定」（☞P.48）で、多重露光を［ON］にしておいてください。［OFF］になっていると、本操作を行うことができません。なお、多重露光が［ON］になっているときは、セットアップメニューの「プレビュー」の設定にかかわりなく、カラー液晶モニターに撮影した画像がプレビュー表示されます。

1 通常の方法で撮影します。

- 画像がプレビュー表示されます。

2 ファンクションボタン[2]を押します。

3 重ねる被写体をファインダーにとらえ、シャッターボタンを全押しします。

- 手順2と3を繰り返すことにより、画像をいくつでも重ね合わせることができます。
- 撮影した画像を重ねたくないときは、ファンクションボタン[2]を押さないで、ファインダーで被写体をとらえてシャッターボタンを全押しします。

4 重ね合わせた画像を記録するときは、ファンクションボタン[1]または"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 画像を記録しないときは、ファンクションボタン[3]または "CANCEL" ボタンを押します。

再生機能について

背面表示パネルからできる機能

・ 再生している画像に対してできる機能です。

項目	説明	参照ページ
ヒストグラム表示	画像中の明暗を分類し、その統計上の輝度分布を表示します。	P.83
1コマ消去	表示されている画像を消去します。	P.35
1コマプロテクト設定	表示されている画像にプロテクトをかけ、誤って削除しないようにします。	P.88
1コマDPOF設定	表示されている画像にDPOF情報を設定します。	P.93
再生ズーム	表示されている画像を拡大表示します。	P.32

カラー液晶モニターの再生メニューからできる機能

・ カラー液晶モニターに画像が表示されている状態で "MENU/EXE" ボタンを押すことにより使用できる機能です。

項目	説明	参照ページ
消去／フォーマット	すべての画像を消去したり、メディアをフォーマットしたりすることができます。	P.86
マルチ再生設定	カラー液晶モニター上に多数コマの画像を表示するときの表示枚数を設定できます。	P.33
プロテクト設定	すべての画像にプロテクトをかけ、誤って削除しないようにします。	P.89
DPOF設定	すべての画像にDPOF情報を設定したり、DPOF情報が設定されている画像のみを表示させ、設定を解除させたりできます。また、プリントしたとき、撮影した日時が表示されるように設定できます。	P.91
オートプレイ設定	記録されている画像を順次再生するときの設定ができます。	P.101
カラー液晶モニターの明るさ調節	カラー液晶モニターの明るさを調節します。	P.103

消去／フォーマット

全コマ消去／フォーマット

全コマ消去をすると、プロテクトした画像以外をすべて消去します。フォーマットをすると、プロテクトした画像を含めてすべての画像を消去し、カードをこのカメラ用に初期化します。

記録されている画像を1コマだけ削除するには、P.35をご覧ください。

1 背面表示パネルで、消去したいメディアタイプを確認します。

「スマートメディア」の場合

・ メディアを切り替えるには、セットアップメニューから「メディア」を選択して行ってください。（☞P.51）

2 "PLAY" ボタンを押して画像を表示させます。

3 "MENU/EXE" ボタンを押して、「ERASE」メニューを表示させます。

4 全コマ消去をする場合は十字ボタンの "▲▼" を押して、「ALL」を選択し、フォーマットをする場合は「FORMAT」を選択します。

5 "MENU/EXE" ボタンを押して、「全コマ消去／フォーマット」を実行する場合は「YES」を選択します。

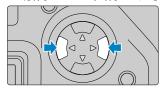
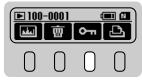
- 操作を中止したいときは、十字ボタンの "▲▼" を押して、「NO」を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

6 "MENU/EXE" ボタンを押します。
「全コマ消去／フォーマット」が終了し、"NO IMAGES" が表示されます。"PLAY" ボタンを押すかシャッターボタンを半押しして撮影モードに戻ります。

- 画像にDPOF指定がある場合に全コマ消去をしようとすると、消去の確認メッセージが表示されます。確認後、"MENU/EXE" ボタンを押します。

プロテクト設定

1コマプロテクト設定／解除

1 "PLAY" ボタンを押し、十字ボタンの "◀▶" を押して、設定／解除したい画像を表示させます。

2 ファンクションボタン[3]を押します。

プロテクト設定が「OFF」の場合

3 ファンクションボタン[1]を押します。

- ファンクションボタン[1]を押すと、指定した画像のプロテクトが設定されます。
- プロテクト設定した画像には、画像の右上に鍵マークが表示されます。
- 続けて他の画像をプロテクトする場合は、十字ボタンの "◀▶" を押して画像を選びます。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。
- ファンクションボタン[4]を押すと、指定した画像のプロテクトが解除されます。

全画像のプロテクト設定／解除

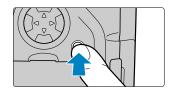
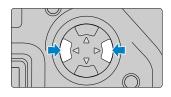
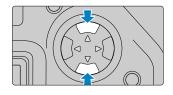
画像を誤って消去しないように設定します。
全画像にプロテクト設定することができます。

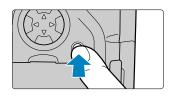
1 **背面表示パネルで、プロテクト設定／解除したいメディアタイプを確認します。**

「スマートメディア」の場合

・ メディアを切り替えるには、セットアップメニューから「メディア」を選択して行ってください。（☞P.51）

2 **"PLAY" ボタンを押して画像を表示させます。**

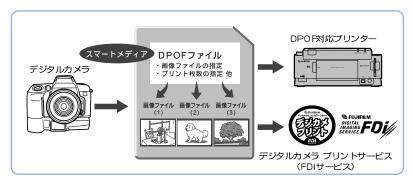
3 **"MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。**

4 **十字ボタンの "◀▶" を押して、「PROTECT」メニューを表示させます。**

5 十字ボタンの"▲▼"を押して、設定の場合は「ALL」を、解除の場合は「UNPROTECT ALL」を選択し、"MENU/EXE"ボタンを押します。

「ALL」の場合

6 確認メッセージを確認した後、"MENU/EXE" ボタンを押します。

設定する場合

- "MENU/EXE" ボタンを押すと、すべての画像のプロテクトが設定または解除されます。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。
- プロテクト設定した画像には、画像の右上に鍵マークが表示されます。

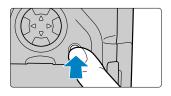
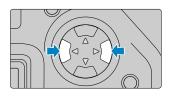
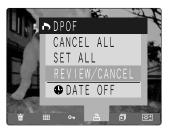
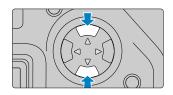
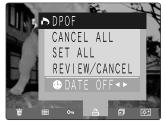
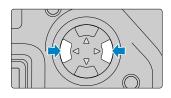
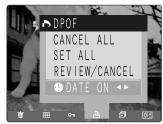
DPOF設定

DPOFについて

DPOF（ディーポフ）とは「Digital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）」のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたい画像やその枚数などの指定情報をスマートメディアやマイクロドライブなどに記録するときの形式です。

- **DPOF対応のデジタルカメラ（本機）では、上記の情報をカメラの操作で、スマートメディアやマイクロドライブなどに記録することができます。**
- **DPOF情報を記録したスマートメディアをフジフイルム デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。**
- **DPOF対応プリンタでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。**

日時印字設定／解除

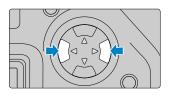
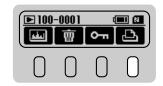
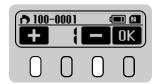
画像のプリントに、撮影した日時を入れるか入れないかを設定します。

1 **"PLAY" ボタンを押し、"MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。**

2 **十字ボタンの "◀▶" を押して、「DPOF」メニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの "▲▼" を押して、「DATE OFF」を選択します。**

4 十字ボタンの " ◀ ▶ " を押すと、"DATE ON" または "DATE OFF" が設定できます。電源をOFFするまで設定は有効です。

・ "CANCEL" ボタンを押すことにより、メニュー表示が消せます。

他のDPOF設定の前に、必ず日付あり／なしの設定を行ってください。

1コマDPOF設定

選んだ画像をDPOF指定（プリント枚数の指定）します。

1 "PLAY" ボタンを押し、十字ボタンの " ◀ ▶ " を押して、設定したい画像を表示させます。

2 ファンクションボタン[4]を押します。

3 ファンクションボタン[1]または[3]を押して、画像のプリント枚数を指定します。

- プリント枚数を増やす場合はファンクションボタン[1]を、減らす場合はファンクションボタン[3]を押します。

■トリミング設定する場合（手順4～5）

4 十字ボタンの"▲"を押します。トリミング設定画面になります。十字ボタンの"▲"を押すことによりさらに拡大できます。

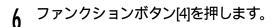
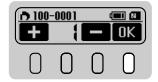
- 十字ボタンの"▼"を押すと、拡大された画面が元に戻ります。
- 十字ボタンの"◀▶"を押すと、他の画像が再生表示されます。
- 画像を等倍表示に戻すときは、"CANCEL"ボタンを押します。

5 画像の他の部分をトリミングして見たいときは、"PLAY" ボタンを押してカーソルを表示させ、十字ボタンの"▲▼◀▶"を押して、トリミングしたい部分を表示させます。

- トリミング可能な倍率は以下の通りです。

記録画素数	最大倍率
3040×2016	4.52倍
2304×1536	3.6倍
1440×960	2.14倍

- カーソルを消して通常の拡大表示画面に戻るときは、もう一度 "PLAY" ボタンを押すか、"CANCEL" ボタンを押します。

6 ファンクションボタン[4]を押します。

- ファンクションボタン[4]を押すと、DPOF情報が設定されます。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

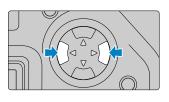
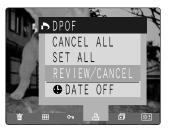
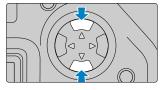
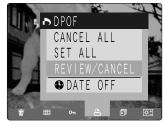
1コマ確認／解除（REVIEW/CANCEL）

DPOF指定されている画像のみを表示させたり、画像ごとにDPOF指定を解除することができます。

1 "PLAY" ボタンを押し、画像を表示させます。

2 "MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。

3 十字ボタンの "◀▶" を押して、「DPOF」メニューを表示させます。

4

4 十字ボタンの "▲▼" を押して、「REVIEW/CANCEL」を選択します。

5 "MENU/EXE" ボタンを押します。

6 十字ボタンの "◀▶" を押すと、プリント枚数設定したコマだけを確認できます。DPOF設定を解除したい場合は、"MENU/EXE" ボタンを押します。

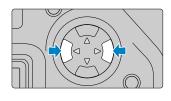
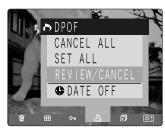
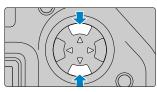
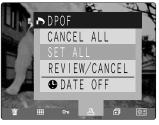
- DPOF設定されている画像がない場合は、画像は表示されません。
- 画像はDPOF設定した順に並んでいます。
- DPOF設定されている画像にエラーがある場合、または他機種でDPOF設定した場合は、確認メッセージが表示されます。確認後、DPOF設定を解除する場合は "MENU/EXE" ボタンを、操作を中止したいときは "CANCEL" ボタンを押します。
- "MENU/EXE" ボタンを押すと、指定した画像のDPOF指定が解除されます。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

全コマ設定（SET ALL）

全画像にDPOF情報を登録します。

1 **背面表示パネルでDPOF情報を登録したいメディアタイプを確認します。**

2 **"PLAY" ボタンを押し、"MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの "◀▶" を押して、「DPOF」メニューを表示させます。**

4 **十字ボタンの "▲▼" を押して、「SET ALL」を選択します。**

DPOF指定が「ON」の場合

5 **"MENU/EXE" ボタンを押します。**

6 DPOF登録する枚数を確認後、"MENU/EXE" ボタンを押します。

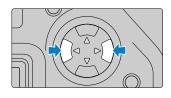
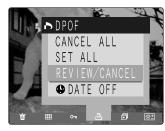
- カラー液晶モニターにトータル枚数が表示され、その後メニューに戻ります。
- DPOF設定されている画像が壊れているとき、または他機種でDPOF設定した場合は、エラー音が鳴り、確認メッセージが表示されます。メッセージを確認後、DPOF設定を再設定するときは "MENU/EXE" ボタンを、操作を中止したいときは "CANCEL" ボタンを押します。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

全コマ解除（CANCEL ALL）

全画像のDPOF情報を解除します。

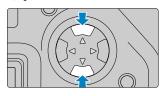
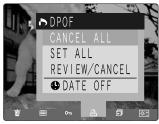
1 **背面表示パネルでDPOF情報を解除したいメディアタイプを確認します。**

2 **"PLAY" ボタンを押し、"MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。**

3 **十字ボタンの "◀▶" を押して、「DPOF」メニューを表示させます。**

4 **十字ボタンの "▲▼" を押して、「CANCEL ALL」を選択します。**

DPOF指定が「ON」の場合

5 **"MENU/EXE" ボタンを押します。**

4

6 DPOF設定を解除する枚数を確認後、"MENU/EXE" ボタンを押します。

- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

オートプレイ設定

撮影した画像をオートプレイ（自動再生）する方法を設定します。
オートプレイは下記の内容が設定できます。

WIPE-1： 画像の切り替え（ワイプ）を斜めにします。

WIPE-2： 画像の切り替え（ワイプ）をうず巻きにします。

WIPE-3： 画像の切り替え（ワイプ）をモザイクにします。

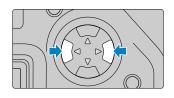
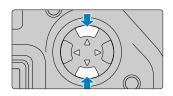
WIPE-OFF： 画像がスクロールなしで表示されます。

表示時間： オートプレイの表示時間を0.3秒、1秒、2秒、3秒、5秒の中から選択できます。

- 表示時間は目安です。画像のクオリティー設定、ピクセル設定などにより時間は変化します（高画質となるほど、記録画素数が多いほど時間がかかります）。

1 "PLAY" ボタンを押し、画像を表示させます。

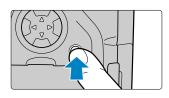
2 "MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。

3 十字ボタンの " ◀▶ " を押して、「AUTO PLAY」メニューを表示させます。

4 **十字ボタンの"▲▼"を押して、オートプレイの表示時間を選択し、十字ボタンの" ◀ ▶ " で表示時間を設定します。次に、十字ボタンの"▲▼"を押して、オートプレイの方法を設定します。**

5 **"MENU/EXE" ボタンを押します。**
オートプレイが実行されます。

- オートプレイの方法を設定しないと、オートプレイは開始できません。
- オートプレイを中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

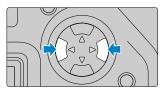
カラー液晶モニターの明るさ調節

■カラー液晶モニターの明るさを11段階で調節できます。

1 "PLAY" ボタンを押し、"MENU/EXE" ボタンを押して、メニューを表示させます。

2 十字ボタンの " ◀ ▶ " を押して、「BRIGHTNESS」メニューを表示させます。

- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

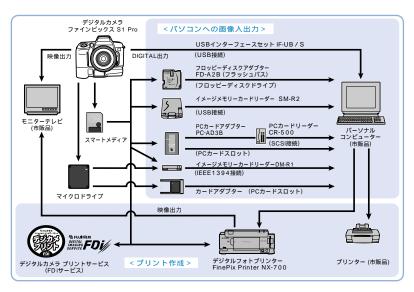
3 "MENU/EXE" ボタンを押します。

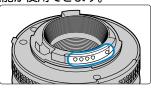
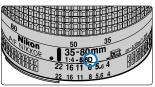
4 十字ボタンの"◀▶"を押して、明るさを調節します。

- カラー液晶モニターを明るくするには十字ボタンの"▶"を、暗くするには"◀"を押します。
- 操作を中止したいときは、"CANCEL" ボタンを押します。

5 "MENU/EXE" ボタンを押して決定します。

- "CANCEL" ボタンを押すことにより、メニュー表示が消せます。

システムアップ機器

■別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。詳しくは108、109、111、112ページをご参照ください。

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）をご使用ください。特に、DタイプAFニッコールレンズを装着すれば、すべての機能が使用できます。

CPU内蔵ニッコールレンズには
CPU信号接点があります。

DタイプAFニッコールの
見分け方

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

- **使用可能な露出モードには制限があります。**
  露出モードをM（マニュアル）にセットした場合のみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着して撮影できます（M以外の露出モードでは、シャッターはきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F--となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

注意　使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズについて

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますので注意してください。

- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6　OP10mm f/5.6）
- ED180〜600mm f/8（No.174166以前の製品）
- ED360〜1200mm f/11（No.174087以前の製品）
- 200〜600mm f/9.5（No.300490以前の製品）
- F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（No.906200以前の製品）
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361〜143000）
- レフレックス2000mm f/11（No.200310以前の製品）
- メディカルニッコール200mm f/5.6（ホットシューアダプターAS-15を併用すればご使用になれます）

CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズについて

レンズ＼モード		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
							マルチパターン測光		中央部重点測光※1
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	M以外	M	3D-6分割	6分割	
CPU内蔵ニッコール※2	DタイプAFレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○
	AF-S、AF-Iレンズ（Dタイプレンズ）	—	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ85mm F2.8D ※3	—	○※4	○	—	○	○	—	○
	AF-Iテレコンバーター	—	○※5	○	○	○	○	—	○
	Dタイプ以外の AFニッコール （F3AF用を除く）	○	○	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○※6	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※7	Ai-S、Ai シリーズEレンズ 改造Aiニッコール	—	○※6	○	—	△※8	—	—	—
	メディカル120mm f/4	—	○	○	—	△※8	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	△※8	—	—	—
	PCニッコール	—	○※4	○	—	△※8	—	—	—
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○※5	○	—	△※8	—	—	—
	ベローズPB-6 （Kリング1.3.4.5併用）	—	○※5	○	—	△※8	—	—	—
	オート接写リング （PK-11A.12.13.PN-11）	—	○※5	○	—	△※8	—	—	—

※1. 露出モードがM（マニュアル）時やAEロック使用時には自動的に中央部重点測光に切り替わります。
※2. IXニッコールは装着できません。
※3. カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※4. あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※5. 合成絞り値がf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※6. 開放絞り値がf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。
※7. 一部装着不可能なレンズ（☞ P.106）があります。
※8. 露出モードをMに設定、ただし、露出計は使用できません。

別売アクセサリーについて

ここでは、別売アクセサリーのうち代表的なものをご紹介します。この他にも撮影領域を拡げるため、数多くの別売アクセサリーが用意されています。詳細はカタログ等をご覧ください。

●スマートメディア™

以下の種類がお使いいただけます。

●MG-4SB　：　4MB、3.3V仕様
●MG-8SB　：　8MB、3.3V仕様
●MG-16SB　：16MB、3.3V仕様
●MG-32SB　：32MB、3.3V仕様
●MG-16SW　：16MB、3.3V仕様（ID付き）
●MG-32SW　：32MB、3.3V仕様（ID付き）
●MG-64SW　：64MB、3.3V仕様（ID付き）

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

●マイクロドライブキット MK-1

IBM製の小型のハードディスクドライブで、容量が340MBあり、大量の画像を保存することができます。
専用PCカードアダプターが付属しています。

●イメージメモリーカードリーダー DM-R1

パソコンの外付けドライブのファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。

●IEEE1394インターフェース
●スマートメディア、コンパクトフラッシュ タイプII（マイクロドライブ対応）のダブルスロット

●ACパワーアダプター AC-5VH

長時間の撮影時、パソコンとの接続時にお使いください。
AC100〜240V、50/60Hzでご使用になれます。

●単3形ニッケル水素電池1600（HR-AA）

高容量の単3形ニッケル水素電池です。
4本パック「型名HR-AA/4B」をお買い求めください。

●単3形ニカド電池ハイパワー1000（KR-AA HP）
高容量の単3形ニカド電池です。
4本パック「型名 KR-AA(HP)/4B」をお買い求めください。

●ニッケル水素/ニカド急速充電器80（FNH）
ニッケル水素電池 2本を約80分間で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です
（日本国内使用専用）。

●キャリングケース LC-S1
専用のキャリングケースです。カメラボディ本体と別売アクセサリー（充電器、ACパワーアダプターなど）や小型ストロボ、交換レンズを収納することができます。

用語の解説

AF/AEロック	：画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。
EV	：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。 CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。
Exif（イグジフ）ファイル形式	：Exif（イグジフ）は、JEIDA（日本電子工業振興協会）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。
JPEG（ジェイペグ）	：Joint Photographic Experts Groupの略 カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。
TIFF-RGB	：画像データの保存形式の一つで、各データにファイル形式を示すタグが付いています。パソコンで開ける形式です。
TIFF-YC	：画像データの保存形式の一つで、この形式の画像を開くにはTIFF-YC対応のアプリケーションソフトが必要です。弊社のUSBインターフェースセット IF-UB/S1の使用をおすすめします。 データの大きさはTIFF-RGBの2/3になります。
色温度	：黒炭のようなものの表面温度と放射する光の色には一定の関係があり、温度が低いと赤みがかった色で、温度が高いと青みが強くなります。この温度に対する光の色を色温度（K=ケルビン）で表します。よく晴れた正午頃の太陽の光は5500Kと言われています。
オートパワーオフ機能	：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、しばらく何も操作しないと自動的に電源をOFFします。本機では2分/5分の設定ができます。 ●セットアップでオートパワーオフを無効にした場合、またはオートプレイ時やUSB接続時は、オートパワーオフしません。
ホワイトバランス	：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能をオートホワイトバランスといいます。

USBインターフェースセット IF-UB/S1を使用する

パソコンとカメラを付属のケーブルで接続すると、カメラからパソコンへ画像データを転送できます。ただし、パソコンからのデータの書き込みはできません。また、カメラをパソコンから制御して撮影を行ったり、撮影条件を設定したりすることもできます。

注意　USBケーブルについてのご注意

一部の大きなレンズ、レンズ付属の三脚座の取り付け方により、レンズや三脚座とUSBケーブルが干渉し、USBケーブルの接続に支障がある場合があります。

要点　利用可能なパソコン

Windows 2000、 Windows 98（Second Edition含む）、Macintosh/MacOS 8.5.1～MacOS 9.0で利用可能です。
ただし、USBポートのある機種（自作パソコンは動作保証外です）に限ります。

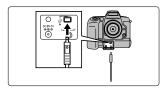
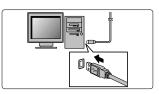
1 メディア（スマートメディアおよびマイクロドライブ）をセットします。（☞ P.24）

- 撮影制御を行う場合は、メディアをセットする必要はありません。

2 電源スイッチをONにして、"MENU/EXE" ボタンを押して、十字ボタンの " ▲▼ " でPCモードを選択します。

- パソコンから本機の撮影制御を行うには、「PCモード ▶ 撮影」を選択してパソコンのソフトウェアは「Camera Shooting Software」をご利用ください。
- パソコンへ本機から画像データの転送を行うときは、「PCモード ▶ 転送」を選択してください。
- ソフトウェアの使用方法については、USBインターフェースセット IF-UB/S1の使用説明書をご覧ください。

3 設定が終了したら、十字ボタンの " ▲▼ " を押し、"設定終了" を選択し、"MENU/EXE" ボタンを押します。

4 **カメラのデジタル（USB）端子に専用ケーブルの小さいプラグを接続し、もう片方のプラグをパソコンのUSB端子に接続します。パソコンの電源が入っていると、背面表示パネルに が表示されます。**

・ 専用ケーブル以外は使用しないでください。
・ 背面表示パネルに "! BUSY" が表示されているときは "アクセス中" です。アクセス中は絶対にスロットカバーを開けたり、ケーブルを抜いたりしないでください。データが正しく転送できなかったり、カメラが誤作動したりすることがあります。

転送モード

撮影モード

メディアを交換するとき（転送モード時）

● Windows98の場合
"アクセス中" でないことを確認した上で、電源をOFFして交換してください。
● Windows2000 Professionalの場合
"アクセス中" でないことを確認した上で、タスクバー上の取り外しアイコンをクリックして、電源をOFFして交換してください。
● Macintoshの場合
パソコンでデスクトップ上のリムーバブルドライブ アイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップして、背面表示パネルに "REMOVE OK" が表示されたのちに電源をOFFして交換してください。

・電源をOFFしないでスロットカバーを開けると、上面表示パネルに "Err" 表示されます。電源をOFFしてメディア交換後、再度電源をONにしてください。
・ACパワーアダプター AC-5VH（別売）と電池型アダプターの使用をおすすめします。データ転送中に電源が切れると、正常にデータの転送ができません。
・パソコンと接続されているときは、オートパワーオフしません。

使用上のご注意

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- ●湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- ●直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- ●振動の激しいところ
- ●油煙や湯気の当たるところ
- ●強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- ●防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

砂は本機の大敵です。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴（結露）がつくことがあります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、スマートメディア／マイクロドライブに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディア／マイクロドライブを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー、スマートメディア、マイクロドライブを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- ●レンズ、カラー液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- ●レンズ、カラー液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- ●カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- ●このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内のサービスステーションにご相談ください。
- ●海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

CCDのクリーニングについて

■このカメラには撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。
このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。
CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償)。
万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合の弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

注意　CCDにゴミやほこりを付着させないために

- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

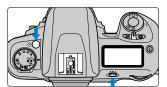
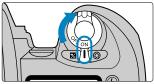
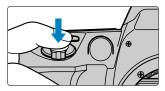
クリーニングが必要かどうかの判断方法

1 ACパワーアダプター（別売）と電池型アダプターをセットします。

- クリーニング中の電池切れによりミラーダウンしたり、シャッターが閉じてカメラを破損したりしないように、ACパワーアダプターと電池型アダプターを必ず使用してください。

2 カメラからレンズを取り外します。

3 露出モードダイヤルをMにセットします。

4 セルフタイマーボタン"⏲"とAEロックボタン"AE-L"を同時に押しながらカメラの電源をONにします。

5 シャッターボタンを押します。ミラーがアップしてシャッターが開いたままの状態になります。

6 CCDに光が当たるようにカメラを持って、表面をチェックします。

- CCDにゴミなどが付着している場合、弊社サービスステーションにクリーニングを依頼されるか、次ページを参考にクリーニングを行ってください。
- CCDにゴミなどが付着していない場合、次ページの「クリーニングの方法」の操作手順3を参考にミラーをダウンさせます。

クリーニングの方法

1 **「クリーニングが必要かどうかの判断方法」の操作手順1～5を行い、ミラーアップします。**

- クリーニング中にACパワーアダプターを絶対に抜かないでください。シャッター等の破損の原因となります。

2 **CCDの表面にあるゴミをブロアーで取り除きます。**

注意 **クリーニング時の注意**

- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロアーのブラシでCCDのゴミを取り除くと、表面にキズをつけることがあります。
- CCDに油脂や指紋等のブロアーでは取り除けない汚れがあった場合、弊社サービスステーションにお持ちください。CCDはとても傷つきやすい部品なので、表面を拭き取るなどのクリーニングは絶対に行わないでください。

3 **ゴミが完全に取り除かれていることを確認し、セルフタイマー"⏲"とAEロックボタン"AE-L"を同時に押しながらカメラの電源をOFFにして、ACパワーアダプターをカメラから外します。**

- 電源をOFFにすると同時にミラーがダウンして、シャッターが閉じますので指などが挟まれないように注意してください。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形ニッケル水素電池、単3形ニカド電池、単3形アルカリ乾電池、リチウム電池CR123A、ボタン型電池CR2025を使用してください。
  単3形マンガン乾電池や単3形リチウム電池は、電池の発熱などにより本機の故障や事故の原因となることがありますので使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により容量の差があり、電池寿命（使用時間）がかなり短い場合があります。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池)、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（ボタン型電池CR2025を取り外した場合、各種設定が工場出荷設定に戻ります)。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、同種類の電池はすべて新しい電池にお取り替えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池、リチウム電池CR123A、ボタン型電池CR2025では「最近購入した未使用のもの」、ニッケル水素電池／ニカド電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（+10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が短くなります。特にアルカリ乾電池、リチウム電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。

電源についてのご注意－つづき－

万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

●電池の廃棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

●小形充電式電池（ニッケル水素電池／ニカド電池）についてのご注意

- 単3形ニッケル水素電池／ニカド電池の充電は、急速充電器（別売）を使用し、正しく行ってください。
- 急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- ニッケル水素電池／ニカド電池は、出荷時には充電されていません。ご使用の前に必ず充電してください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池/ニカド電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池／ニカド電池は使わなくても自己放電しています。ご使用の前に必ず充電してください。また、正常に充電したにもかかわらず、使用できる時間が著しく短くなったときは、電池の寿命です。新しいものをお買い求めください。
- ニッケル水素電池の電極に、皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。この場合は、電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃後、一度使いきってから充電してください。

●小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（ニッケル水素電池/ニカド電池など）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。
このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。
ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプター（AC-5VH）についてのご注意

極性統一形プラグ

本機には、必ず専用のACパワーアダプターAC-5VH（別売、EIAJ規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。AC-5VH以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因になることがあります。

- ACパワーアダプターの接点部には、他の金属が触れないようにしてください。ショートする危険があります。
- 電池動作中にACパワーアダプターを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- ACパワーアダプター動作中に電池を入れたり、交換したりしないでください。一度電源を切ってから行ってください。

メディア（スマートメディア™およびマイクロドライブ）についてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像データが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像データを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて

SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■マイクロドライブについて

Microdrive（マイクロドライブ）は小型／軽量のハードディスク・ドライブでコンパクトフラッシュの拡張規格であるCF＋Type IIに準拠しています。大量の画像データが余裕で記録でき、1MBあたりの記録コストも低減するため、高画質な画像をより経済的に保存することができます。

■データ保持について

以下の場合、記録したデータが消滅（破壊）することがあります。記録したデータの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がメディアの使いかたを誤ったとき
＊メディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊メディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき
＊メディアを曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしたとき

大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■メディアに共通の取扱上のご注意

- メディアを入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メディアが破壊されることがあります。
- メディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気・電気的ノイズ・磁気の発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。

■スマートメディアについての取扱上のご注意

- 指定以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
- スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
- スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気による影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。
- 静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。

- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- スマートメディアのインデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
- スマートメディアのインデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因によるスマートメディアの初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■マイクロドライブについての取扱上のご注意

- マイクロドライブのラベルに記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。
- マイクロドライブにラベルを重ねてはらないでください。
- マイクロドライブの持ち運びや保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースに入れてください。
- 取り出し機能のないCF＋Type IIスロットでは使用しないでください。
- 長時間使用すると熱くなることがありますので、取り扱いに十分注意してください。
- 強い磁気のそばに近づけないでください。
- 濡らさないでください。
- カバーを強く押さないでください。

■メディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのメディアを使って撮影する場合、メディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- メディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダーが作成されます。画像データは、このフォルダー内に記録されます。
- パソコンでメディアのフォルダー名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。メディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- メディア上の画像データの消去はカメラで行ってください。
- 画像データを編集する場合は、画像データをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像データを編集してください。

■スマートメディアの主な仕様

形　　式	デジタルカメラ用 イメージメモリーカード SmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm （幅/高さ/厚み）

■マイクロドライブの主な仕様

形　　式	コンパクトフラッシュ TypeII
動作電圧	3.3V、5V
使用条件	温度 ＋5℃～＋40℃ 湿度 8～90%以下 （結露しないこと）
外形寸法	42.8mm×36.4mm×5mm （幅/高さ/厚み）

警告表示

■上面表示パネル、ファインダー内表示、背面表示パネル、カラー液晶モニターに警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
上面表示パネル	ファインダー内			
FEE （点滅）	FEE （点滅）	● レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	● レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.20
（点滅）		● リチウム電池が消耗しています。	● リチウム電池を交換してください。	P.17,18 P.22
（点灯）		● リチウム電池の電池容量がわずかです。	● 予備のリチウム電池を用意してください。	P.22
F - - （点滅） （Mモード時は点灯）	F - - （点滅） （Mモード時は点灯）	● CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	● CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください（ただし、Mモードにセットすれば撮影できます）。	P.20 P.106
Err （点灯）		● 使用中にスロットカバーが開けられました。	● 電源スイッチをいったんOFFにして、スロットカバーを閉めた後、電源スイッチをONにして再び使用してください。	P.25 P.112
Err （点灯）		● 単3形電池の電池容量が低下もしくはなくなっています。 ● 単3形電池が入っていません。	● 電源スイッチをいったんOFFにして単3形電池を交換、または単3形電池を入れた後、電源スイッチをONにして再び使用してください。	P.18
Err （点滅）		● リチウム電池の電池容量が低下している場合や低温時はメカが停止し、撮影ができません。	● 電源スイッチをいったんOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして再び使用してください。それでも復帰しないときは、フォーカスモードをMにセットし、シャッターをきって電源スイッチをいったんOFFにしてください。	P.17,18

警告表示ーつづきー

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
上面表示パネル	ファインダー内			
	● （点滅）	● AF（オートフォーカス）でピント合わせができません。	● M（マニュアル）でピント合わせを行ってください。	P.58
HI （点灯）	HI （点灯）	● 被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	● Sモード（シャッター優先オート）時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ● Aモード（絞り優先オート）時はより大きい数値の絞り値にしてください。 ● M以外の露出モードでは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。	P.62 P.63 P.60-66
Lo （点灯）	Lo （点灯）	● 被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	● Sモード（シャッター優先オート）時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ● Aモード（絞り優先オート）時はより小さい数値の絞り値にしてください。 ● M以外の露出モードではストロボを使用してください。	P.62 P.63 P.60-66
	ϟ （点滅）	● 被写体が暗いのでストロボの使用をすすめています。	● 内蔵ストロボを使用してください。	P.76
	ϟ （点滅）	● 発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	● 撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.74
Err ϟ （点滅）	Err ϟ （点滅）	● A、Mモード以外の時にニコン製ストロボのモードセレクターが、TTLにセットされていません。	● モードセレクターをTTLにセットするか、露出モードをAまたはMモードにセットしてください。	P.79

こんなとき		原　因	対処方法	参照ページ
背面表示パネル	カラー液晶モニター			
(点滅)		● 単3形電池が消耗しています。	● 単3形電池を交換してください。	
(点灯)		● 単3形電池の電池容量がわずかです。	● 予備の単3形電池を用意してください。	
	! READ ERROR	● 正常に記録されていないデータを再生しようとしています。	● 再生することはできません。	
	! CARD NOT INITIALIZED	● 記録メディアがフォーマット（初期化）されていません。	● 記録メディアをフォーマットしてください。	P.86
	! CARD ERROR	● エラーのあるカードを再生しようとしています。	● 再生することはできません。	
	! PROTECTED CARD	● スマートメディアにライトプロテクトシールが貼られています。	● ライトプロテクトシールの貼られていないスマートメディアをご使用ください。	P.24
! PROTECT	! PROTECT	● プロテクトされているコマを消去しようとしています。	● プロテクトを解除してください。	P.88
	DPOF FRAME ERASE OK?	● 削除しようとした画像はDPOFプリント指定されています。	● 画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。	P.91-100
	RESET UNMATCHED DPOF OK?	● DPOFファイルにエラーがあります。あるいは、他機種で設定したDPOFファイルが存在しています。	● DPOFファイルを新しく作成し、DPOF設定を全てやり直す場合は、"MENU/EXE" ボタンを押してください。	P.91-100
	! DPOF FILE ERROR	● DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント設定をしようとしています。	● 同一メディア内でプリント指定できるコマ数は、999コマまでです。	
ストロボヲトジテシヨウシテクダサイ ／ CLOSE ⚡. W/O CR-123 （言語/LANGUAGE設定がEnglishのとき）		● 電池型アダプターを使用しているのに内蔵ストロボがポップアップされています。	● 電池型アダプター使用時は、内蔵ストロボは使用できません。	
Err		● 記録メディアがフォーマット（初期化）されていません。 ● エラーのあるカードに記録しようとしました。	● 記録メディアをフォーマットしてください。 ● 記録することはできません。	

故障とお考えになる前に

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	●電池が消耗しています。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れています。	●新しい電池と交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。
電源が途中で切れる。	●電池が消耗しています。	●新しい電池と交換する。
電池の消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っています。 ●端子が汚れています。 ●電池の寿命。	●電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●電池の端子部分を乾いたきれいな布でふく。 ●新しい電池と交換する。
単3形電池の交換時に日時の設定がリセットされる	●ボタン型電池CR2025が入っていない。 ●ボタン型電池CR2025が消耗している。	●新しい電池を入れる。 ●新しい電池と交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアあるいはマイクロドライブが入っていません。 ●スマートメディアあるいはマイクロドライブに空き容量がなく、これ以上記録できません。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっています。 ●スマートメディアあるいはマイクロドライブがフォーマットされていません。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れています。 ●スマートメディアあるいはマイクロドライブが壊れています。 ●オートパワーオフになり、電源が入っていません。 ●電池が消耗しています。 ●ピントを合わせられません。 ●電池型アダプターを使用しているときに内蔵ストロボを使用して撮影しようとしています。 ●エラーが発生しています。	●スマートメディアあるいはマイクロドライブを入れる。 ●新しいスマートメディアあるいはマイクロドライブを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）を乾いたきれいな布でふく。 ●新しいスマートメディアあるいはマイクロドライブを入れる。 ●電源を入れる。 ●新しい電池と交換する。 ●フォーカスモードをマニュアル（M）にしてピントを合わせて撮影してください。 ●内蔵ストロボを閉じて撮影してください。 ●P.121、122、123の警告表示を参照して処置してください。

症　　状	原　　因	処　　置
ストロボ撮影ができない。	●ストロボ発光禁止になっています。 （ストロボが閉じている） ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押しています。 ●電池型アダプターを使用しています。	●ストロボをポップアップする。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。 ●リチウム電池を使用してください。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠いです。 ●ストロボに遮蔽物がかかっています。	●被写体に近づく。 ●レンズフードを外す。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れています。 ●ピントが合っていません。	●レンズを清掃する。 ●ピントを正しく合わせる。 （☞P.28）
スマートメディアあるいはマイクロドライブのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっています。 ●メディアがこわれています。	●誤記録防止状態を解除する（ライトプロテクトシールをはがす）。 ●新しいメディアと交換する。
全コマの消去ができない。	●コマがプロテクトされています。	●プロテクトを解除する。
カメラのスイッチやダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●電池が消耗しています。	●電源（電池）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●新しい電池と交換する。
"PLAY" ボタンを操作してもカラー液晶モニターに画像が表示されない。	●メディアが入っていません。 ●メディアに撮影データが記録されていません。	●撮影データの入っているメディアを入れる。
テレビに画像が出ない。	●カメラとテレビの接続が間違っています。	●正しく接続する。 ●テレビの入力を「ビデオ」にする。

主な仕様

項　　目		仕　　様
	型式	レンズ交換式一眼レフタイプデジタルカメラ
記録	記録メディア	・スロット1：　スマートメディア（3.3V仕様） ・スロット2：　マイクロドライブ340MB（IBM製）
	記録方式	DCF準拠（ExifVer.2.1 JPEG準拠／TIFF-RGB、TIFF-YC）／DPOF対応
	記録画素数	3040×2016（613万画素）、2304×1536（354万画素）、1440×960（138万画素）
撮像	撮像素子	大型(23.3mm×15.6mm)スーパーCCD ハニカム原色フィルター採用（総画素数:ハニカム配列の340万画素）
	撮像感度	ISO320、400、800、1600相当
カメラ	露出制御	Auto、P、S、A、M、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景
	レンズマウント	ニコンＦマウント
	交換レンズ	P106、107をご覧ください。
	実撮影画角	レンズ表記焦点距離の約1.5倍（35mmカメラ換算）
	ファインダー	光学式アイレベル式（視野率:上下約90%、左右約93%）
	視度調節	-1.5～+1.0dpt
	オートフォーカス	TTL位相検出方式、AF補助光付き
	レンズサーボ	AF（シングルAFサーボ、コンティニュアスAFサーボをカメラが自動選択）、M（マニュアル）
	測光方式	3D-6分割マルチパターン測光、6分割マルチパターン測光、中央部重点測光
	シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
	シャッタースピード	30秒～1/2000秒
	露出補正	±3EV（1/3ステップ）
	AEロック	AEロックボタンによるBVメモリ-方式（中央部重点測光）
	セルフタイマー	2秒、10秒
	シンクロ接点	X接点のみ（半導体方式）、1/125秒以下の低速シャッタースピードでストロボに同調
	内蔵ストロボ	手動ポップアップ方式。ガイドナンバー15（ISO100･m） 照射角は28mmレンズの画角をカバー、TTL-BL調光 F2.8　F4.0　F5.6　F8　F11 ISO320　2.2～10.3m　1.8～8.7m　1.3～6.3m　0.8～4.3m　0.8～3.2m ISO400　2.5～11.5m　2.0～9.7m　1.5～6.8m　1.0～4.8m　1.0～3.6m ISO800　非対応*1 ISO1600　非対応*1
	シンクロモード	ノーマルシンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、スローシンクロ
	アクセサリーシュー	ホットシュー（フラッシュ接点、TTL自動調光用接点、レディライト用接点付） セーフティロック機構付
	リモートレリーズ	シャッターボタンにレリーズソケット有り

*1　ISO 800/1600では適正なストロボ調光ができません。プレビューモードで露出を確認して撮影してください。

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>仕　　様</th></tr>
<tr><td rowspan="2">表示</td><td colspan="2">情報表示</td><td>ファインダー内表示
上面表示パネル
背面表示パネル（バックライト付）</td></tr>
<tr><td colspan="2">カラー液晶モニター</td><td>2型20万画素低温ポリシリコンTFT</td></tr>
<tr><td rowspan="3">入出力端子</td><td colspan="2">ビデオ出力端子</td><td>ミニ（φ3.5mm）ピンジャック</td></tr>
<tr><td colspan="2">デジタル（USB）端子</td><td>パソコンとのデータ転送、およびパソコンからの撮影</td></tr>
<tr><td colspan="2">DC入力端子</td><td>専用ACパワーアダプターAC-5VH接続</td></tr>
<tr><td rowspan="7">主な機能</td><td colspan="2">オートパワーオフ</td><td>無し、2分、5分（オートプレイ中とPC接続動作時はオートパワーオフしません）</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリーチェック</td><td>・カメラ側及び画像処理側それぞれでバッテリーチェックを行う
ただし、電池型アダプター使用時はカメラ側でバッテリーチェックを行う
・チェックレベル:充分／消耗／不足の3段階
カメラ側もしくは画像処理側の何れかの電池容量が不足した場合に３秒間の警告後オートパワーオフを行う</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス</td><td>AUTO／晴れ／日陰／蛍光灯1／蛍光灯2／蛍光灯3／電球／カスタム</td></tr>
<tr><td colspan="2">再生</td><td>1コマ、4分割、9分割、再生ズーム、ヒストグラム表示、オートプレイ</td></tr>
<tr><td colspan="2">消去</td><td>フォーマット、全コマ、1コマ</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質設定</td><td>カラー、階調、シャープネス</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他</td><td>DPOF、多重露光、コマNoメモリー、カスタムWB設定、標準チャート</td></tr>
<tr><td rowspan="6">総合</td><td colspan="2">外形寸法</td><td>148.5×125×79.5mm（LCD部、突起を除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">本体質量</td><td>約800g（本体のみ、電池含まず）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電源</td><td>画像処理側</td><td>単3形電池4本（アルカリ乾電池（付属）、ニッケル水素電池（別売）、ニカド電池（別売））
専用ACパワーアダプターAC-5VH（別売）
ボタン型リチウム電池1個CR2025（付属、時計及び設定バックアップ用）</td></tr>
<tr><td>カメラ側</td><td>リチウム電池2本CR123A（付属）
電池型アダプター使用により画像処理側より電源供給が可能
ただし、電池型アダプター使用時は内蔵ストロボ使用不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリー撮影可能枚数*2</td><td>約650枚（プレビューなし、スマートメディア記録、内蔵ストロボOFF）
画像処理側：ニッケル水素電池1600 HR-AA
カメラ側：リチウム電池CR123A　使用時</td></tr>
<tr><td colspan="2">動作環境</td><td>温度0°C～+40°C（ただし、マイクロドライブ使用時は5°C～+40°C）
湿度80%以下（結露しないこと）</td></tr>
<tr><td colspan="3">付属品</td><td>P.9をご覧ください。</td></tr>
</table>

*2　常温で連続して撮影できる枚数の目安です。カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動があります。

・仕様および性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
・使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
・カラー液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

主な仕様—つづき—

- **標準撮影枚数（記録枚数）**
  撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル	メディア	Hi(RGB)	Hi(YC)	Fine	Normal	Basic
3040×2016	マイクロドライブ(340MB)	19	29	144	305	741
	スマートメディア(64MB)	3	5	26	55	132
	スマートメディア(32MB)	1	2	12	27	66
	スマートメディア(16MB)	0	1	6	13	32
2304×1536	マイクロドライブ(340MB)	33	50	249	520	1249
	スマートメディア(64MB)	6	9	45	94	221
	スマートメディア(32MB)	3	4	22	47	110
	スマートメディア(16MB)	1	2	11	23	54
1440×960	マイクロドライブ(340MB)	84	126	502	972	1822
	スマートメディア(64MB)	15	23	90	172	331
	スマートメディア(32MB)	7	11	45	86	165
	スマートメディア(16MB)	3	5	22	42	82

- **各電池の用途と消耗したときの症状**

	用　　途	消耗したときの症状
単3形電池	画像処理	上面表示パネルに"Err"が表示される。
リチウム電池 CR123A	オートフォーカス、絞り、ミラー、シャッターなどの駆動およびストロボの充電	電源が入らない
ボタン型電池 CR2025	時計および各種設定の記憶	単3形電池入れ換え時に時計、各種設定が工場出荷時設定に戻る。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ
お買上げ店、または弊社サービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意
- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。
- お買上げ店や弊社サービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合は弊社サービスステーションで、お預かりしてから通常7〜14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
■型名　：ファインピックス S1 Pro
■故障の状況　：できるだけ詳しく
■ご購入年月日

お客様へのお知らせ

弊社製デジタルカメラ内のゴミおよびCCD 表面の付着ゴミにつきましては、弊社基準にもとづき検査のうえ出荷いたしております。
ただし、フジフイルムデジタルカメラ ファインピックスS1 Proはレンズ交換式カメラのため、レンズ交換時にカメラ内にゴミなどが入ることがあり、カメラ内に入ったゴミがCCD 表面に付着すると画像上で斑点状に見える場合があります。
カメラ内にゴミが入らないよう、ほこりの多い場所などでのレンズ交換はさけてください。またレンズ交換時は、ブロアーなどでカメラ内のゴミを除去することをおすすめします。

CCD 表面に付着したゴミは「CCD のクリーニングについて」（☞ P.114）にしたがってクリーニングしていただくか、お近くの弊社サービスステーションにCCDのクリーニング（有償）をお申し付けください。
なお、ご自分でクリーニングされる際は、CCD 表面を傷つけないよう十分にご注意ください。万一、CCD に傷をつけたり、破損した場合は保証の対象外となり、CCD 交換は有償（高額）になります。
CCD 表面に付着したゴミの中には、サービスステーションでも除去できないものもあります。予めご了承ください。
このような場合でも画像加工ソフトのゴミ除去機能などを用いて修正することが可能です。